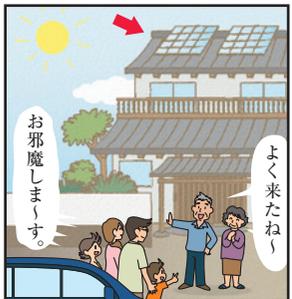
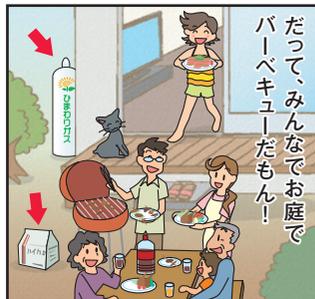


# いつもありがとう

## 第6回作文コンクール入賞作品集 2012

〈選者〉あさのあつこ／尼子騷兵衛／森田正光／崎村忠士／松本宏樹



「いつもありがとう」作文コンクール共催企業

SINANEN ミライフ

ひまわりガス シナネングループ各社

シナネン株式会社 東京都港区海岸一丁目4番22号 <http://www.sinanen.com/>

みんなの身近で暮らしをサポート!

いつもありがとう 第六回作文コンクール入賞作品集 (2012)

もくじ

最優秀賞

ぼくのばあちゃん ありがとう

大関 宙……………4

シナネン賞

お父さんが教えてくれたこと

伊東 遼大……………6

朝日小学生新聞賞

たよりにしてね、おかあさん

竹田 汀奈……………8

優秀賞

〈低学年の部3編〉

だいすきなじいちゃん

脇坂 竜丸……………10

ねえ、じいちゃん

石塚 泰明……………11

大きな声であいさつ

宮里 慈恩……………12

〈高学年の部3編〉

おばあちゃん、ありがとう。

武澤 千里……………13

大きいばあちゃんありがとう

岩井 優希……………14

お母さんありがとう

宝田 杏優……………15

入選

〈低学年の部7編〉

たいせつなたからもの

池田 誇子……………16

さぎようぎのお父さん

金子 瑠奈……………17

おいしくなあれのじゆ文

松田 龍司……………18

おじいちゃんの手

鈴木 愛渚……………19

私のおじいちゃん

岩崎 美咲……………20

大きいひいおばあちゃん

松本 航青……………22

大きいひいおばあちゃん

岩崎 美咲……………20

私のおじいちゃん

岩崎 美咲……………20

佳作

〈低学年の部10編〉

おもしろいおとうさん

金子 美星……………30

ぼくのおとうさん

上村 皓大……………31

おじいちゃん だいすき

清水 桃華……………32

ありがとう、じいちゃん

下川 陽翔……………33

あじょうの交かん

柏崎 日向子……………34

ぼくのべんとう

本村 一志……………35

ありがとうおじいちゃん

宇治 仁貴……………36

はたらき者のお母さん

東谷 亮汰……………37

はなればなれでも

宮ノ前 邑月……………38

お母さん、大すき

伊藤 颯海……………39

〈高学年の部10編〉

おじいちゃん、ありがとう

榎山 敬将……………40

自信をもたせてくれてありがとう

穂山 優成……………41

ありがとうを伝えたい

尾島 諒……………42

わたしのお兄ちゃん

石田 千穂李……………43

頑張りやお母さん ありがとう

佐藤 宜之……………44

ばあば ありがとう

蒲牟田 佳穂……………45

おじいちゃんありがとう

佐藤 二千夏……………46

仕事をがんばるお父さん

民上 茉優……………47

入選

〈低学年の部7編〉

たいせつなたからもの

池田 誇子……………16

さぎようぎのお父さん

金子 瑠奈……………17

おいしくなあれのじゆ文

松田 龍司……………18

おじいちゃんの手

鈴木 愛渚……………19

私のおじいちゃん

岩崎 美咲……………20

大きいひいおばあちゃん

松本 航青……………22

大きいひいおばあちゃん

岩崎 美咲……………20

私のおじいちゃん

岩崎 美咲……………20

黒川 栄美……………48

森田 峻介……………49

団体賞(5団体)

扶桑町立柏森小学校

扶桑町立扶桑東小学校

大阪府 堺市立新浅香山小学校

広島県 福山市立明王台小学校

広島県 ぎんがの郷小学校

選者あとがき……………50

あさのあつこ (作家)

尼子驍兵衛 (漫画家)

森田正光 (気象予報士)

崎村忠士 (シナネン株式会社)

松本宏樹 (朝日小学生新聞)

主催…朝日小学生新聞社

共催…シナネングループ

後援…文部科学省 朝日新聞社

●応募総数三七〇四九作品の中から選ばれました。

## ぼくのばあちゃん ありがとう

福島県 会津若松ザベリ才学園小学校二年 大関 宙

「ただいま。」

と、バスからおりてぼくがいうまえに

「おかえり。がっこうたのしかったか。」

と、まいにちまいにちいえのはたけから、おおきなこえでさけんでくれるのが、ぼくのばあちゃんだ。

ばあちゃんは、はたけでやさいやはなをつくるのがだいすきだ。ばあちゃんをさがすときは、いえのなかよりも、はたけをさがしたほうがはやい。三つはたけがあるけど、どこかしらはたけにかならずいる。そして、ばあちゃんはほうしをかぶって、てぶくろをはめて、ながぐつをはいている。そのかっこうをしているばあちゃんをみるとあんしんする。

ばあちゃんは、ゆうがたになるとやさいをたくさんもってかえてくる。にこにこのえがおで、「いっぱいいたべな。」

と、いう。そして、たべきれないくらいやさいのおかずをつくってくれる。ぼくは、ときどきあきてしまう。でも、ばあちゃんがいっしょうけんめいつくったやさいは、かぞくみんなをげんきしてくれるとおもう。いつもいつもありがとうとおもっている。ばあちゃんのやさいは、

げんきパワーのやさいだ。

ばあちゃんのげんきパワーのやさいのほかに、やるきまんまんパワーのものである。それは、ぼくにゆうきをくれることばだ。

「そらは、だいじょうぶだ。」

と、いつてくれるんだ。そういわれるとぼくは、ようし、やるぞというきもちになる。スイミングのテストのときも、すいえいたいかいのときも、スキーのたいかいのときも、まえのひのよるにかならず

「だいじょうぶだ。だいじょうぶだ。」

と、いつてくれる。どきどきしてきんちようしているぼくは、あんしんする。そして、ぼくが、しっぱいしたときや、できなかつたときでも、

「だいじょうぶだ。」

と、いつてくれる。ぼくは、なきたくなっていたのに、あんしんして、なきわらいがおになる。そしてこのころのなかで、ばあちゃんありがとうといっている。ばあちゃんの、だいじょうぶだのことは、まほうのことばだ。

ばあちゃん、げんきパワーのやさいをいつもありがとう。いっぱいたべておおきくなったら、はたけをたがやすのをてつだうよ。ばあちゃん、やるきまんまんパワーのことばを、いつもありがとう。なんでもあきらめないでがんばるよ。だから、ぼくのために、かぞくのために、ながいきしてほしいんだ。ぼくは、ばあちゃんがいすきだ。いつもいつもおうえんしてくれてありがとう。

## お父さんが教えてくれたこと

神奈川県 川崎市立麻生小学校六年

伊東 遼大

今、一番ありがたうと言いたいのは、お父さんです。ぼくは、生まれてものごころつくころからお父さんはいませんでした。そのため、お父さんがしてくれるだっこ、おんぶ、かたぐるまやお父さんの温かさ、大きさなどをぼくは知りませんでした。しかし今はちがいます。お母さんが再婚して新しいお父さんができたのです。お父さんは生まれた時から障害を持ったぼくを心よくむかえてくれました。時にはきびしく、時にはやさしくというのは今まで味わったことのない不思議な初体験でした。以前は朝起きるのが面倒くさくて寝坊をしたり、夜は部屋で絵を書いたり本を読んでいることが多かったけど、今ではお父さんが会社から帰宅するのがとても待ちどおしく、毎晩家族で話をしています。さらに苦手だった朝起きるのさえ楽しくなっています。

とてもうれしかったのは、学校で「苗字が伊東になりました」と先生が説明してくれたときです。クラスのみんなが「ワー」と拍手してくれたときぼくは思いましました。「ぼくにもお父さんができたんだ」と。なんだかすごくうれしい気持ちになって涙が出そうになったのを覚えています。

ぼくは、病気を治すための手術でしょっちゅう入院することがあります。以前はいつもお母さんが手術室までつきそってくれましたが、どことなくさみしいような気がしていました。しかし、今ではあの大きな体でぼくを思いきりだきしめ「がんばって来い。」と言ってくれるお父さんも一緒です。この力強さと言葉がぼくにどれだけ勇気をあたえてくれたかは、とてもいい表せません。手術が終わって目が覚めた時も大きな手でぼくの手をしっかりとにぎりしめてくれていて「よくがんばったな。」と言ってくれます。ぼくはこれからまだ続く手術もこわくありません。こんなにすばらしいお父さんとお母さんがいてくれるからです。

今までお母さんとお兄ちゃんの三人の生活もすごく楽しかったけど、今の方がもっともつと楽しいです。これから一生けんめい勉強もしてたくさん友達も作って、お父さんのようなかっこよくて優しい大人になれるようがんばりたいです。

「お父さん、ありがたう」

# たよりにしてね、おかあさん

鹿児島県 神村学園初等部二年

竹田 汀奈

「さあ、おそうじして、おとうさんに気もちよくなつてもらおうね。」  
おかあさんが、バケツに水をくみながら言いました。わたしは「ようし。きれいにするぞ。」と  
ほうきをぎゅつとにぎりました。

おかあさんは、まずおはかにお水をかけて、すみずみまでふいていきます。わたしはそのとなり  
でほうきをシャッシュャツとうごかして、おちばをはきます。いもうとたちは、おいかけっこをして  
あそんでいます。

「ふう、きれいになった。」

おかあさんが手であせをぬぐいながら、につこりして言いました。わたしも「うん、ぴかぴかだ。」  
と気もちがよくなります。すうつと風がふいて、わたしのほつべをなでていきます。おとうさんが  
「ていなちゃん、ありがとう。おりこうさん。」となでてくれてるようです。おかあさんも目をとじ  
て、気もちよさそうにしています。おかあさんにもおとうさんの声が聞こえているのかもしれない。

わたしのおとうさんは、わたしが小さいころになくなつてしまいました。だから、おかあさんが、おと  
うさんの分までがんばっています。おしごともおうちのことわたしや三人のいもうとたちのおせわも

あります。おしごとがいそがしくて帰りがおそくなることもあります。そんなときに、おかあさんが  
「ていなちゃん、手つだつてちょうだい。」  
と言うと、わたしはすぐに手つだえるときと「ええ、いやだな。」と思つてしまうときがあります。

でも、お手つだいをすると、おかあさんがかならず、

「お手つだいでくれてありがとう。たよりになるね。」

とにつこりわらってくれるので、うれしくなります。おかあさんのにつこりえがおが、わたしは大すきです。  
今年の夏休みは、おせんたくものたたみのお手つだいをしました。おばあちゃんと「しよに、とりこん  
でたたみました。とりこんだせんたくものは、山のようになります。おばあちゃんが、くるくるつとくつ  
下をたたみながら、

「はしとはしをそろえてね。」

と教えてくれます。はしとはしをそろえて手をぴんとおぼすと、タオルがきれいととのうのです。  
ふかふかのタオルは、お日さまのにおいとおかあさんのにおいがします。あまくて、うつとりする大  
すきなにおい。わたしは、タオルをぎゅつとだきしめて、思いつきりきをすいました。むねいっばいに、  
いいにおいがすうつと入ってきました。おしごとについているおかあさんが、「大すきよ。」とだきしめ  
てくれるようでした。おせんたくものは、たたんでもたたんでもなくなりません。「おかあさんは、  
まい日こんなに大へんなんだ。」と思いました。

おかあさん、わたしたちのためにがんばってくれてありがとう。大すきだよ。いつでもお手つだいな  
よ。たよりにしてね。

## だいききなじいちゃん

千葉県

市川市立鬼高小学校一年

脇坂 竜丸

ほくのじいちゃんは、すごい。しんちようは大きくな  
いけれど、くれーんしゃにのれるんだ。それに、すごく  
やさしくて、こんじようがあつて、つよいんだ。おいしい  
お米もつくれるんだ。

じいちゃんは、あさ一ばんにおきて、たんぽにいく。く  
さとりしたり、水のりようをみたりする。それからあ  
さごはんをたべて、くれーんのかいしゃにいくんだ。しご  
とがおわつてからもたんぽにいく。ほくのもつれて  
いつてくれる。

そんなじいちゃんは、がんばんだ。ままにきいたはなし  
では、ほくが「さいのときに、がんになつてしゅじゅつして、  
やせちゃったんだつて。いまもびよういんにかよつてるんだ。  
はやくなおるといいな。」

じいちゃんとは、いつしよにすんでいないから、よくで  
んわする。おとうとと、でんわのとりあいになる。いつ  
もはやさしくしてあげるけど、じいちゃんとのでんわは  
ゆずれない。だつてほくの「ばんすきなじいちゃんをわ  
たしたくないから。」

じいちゃん、ほくはまいにちじいちゃんのおいしいお米  
をたべているよ。ほくはじいちゃんのお米をたべて、おほ  
きくなったんだ。だから、ほくはごはんをのこさない。

だつて、じいちゃんはびようきなのに、まいにちがんばつて  
せわしてできたお米だから。

なつやすみだから、ほくはじいちゃんちにとまりにきて  
いるんだ。やつぱりじいちゃんは、はやおき。ほくもはや  
おきして、じいちゃんのかたもみした。じいちゃんがすこ  
しでもらくになるように、たくさんがんばつた。てがつか  
れたけど、じいちゃんがよろこんでくれたから、ほくもう  
れしかった。

あとなんかいねたら、なつやすみがおわつちゃうのか  
な。ずつと、じいちゃんといいたいな。もう一ねんせいだから、  
こんどこそは、なかないでさよならするんだ。

じいちゃん、ずつとながいきしてね。じいちゃんのお米  
は、にほんで「ばんおいしい。じいちゃんは、すごくやさしく  
て、すごくかっこいい、じまんのじいちゃんなんだ。ほくが  
おおきくなつたら、うちゅうひこうしになつて、うちゅうに  
つれていつてあげるから、げんきでいてね。じいちゃん、  
いつもありがとう。」

## ねえ、じいちゃん

新潟県

胎内市立きのと小学校二年

石塚 泰明

じいちゃん、あたまにザリガニのせたね。いたくないの？

ほくが、ザリガニをさわれないと知つたら、じいちゃんは「い  
たくないよ。」と、教えてくれた。それでも、ザリガニのはさみ  
がこわくてつかめなかつたんだ。そうしたら、じいちゃんはりよ  
う手でたくさんのザリガニをつかんだね。「はさみ、こわくな  
いの？」つて心ばいしたよ。こんどは、じいちゃん、おなかの中  
にザリガニを入れたね。おなか、はさまれちゃうんじゃないのつ  
て、びっくりしたよ。さいごに、あたまにザリガニ、ぜんぶのせた  
ね。ザリガニジャンプーだね。

ほくはこわかつたけど、ザリガニ二びきつかんでみたよ。ほく  
はうれしかったけど、じいちゃんのほうがうれしそうだったね。

自てん車のうしろをおしてくれたね。「がんばるぞ」つて  
思ったよ。

一年生のとき、自てん車のほじよりんをはずしてれんしゅう  
したね。まい日まい日れんしゅうしたね。じいちゃんは、「がんば  
れ、がんばれ」つて、おうえんしてくれた。すこしのれると、  
「こんどはのれるようになるよ。」つて、言つてくれたね。

のれるようになったら、とつてもうれしかったよ。けどやつぱ  
り、じいちゃんのほうがうれしそうだったね。

海で石なげ見せてくれたね。じいちゃんみたいにくまくなげ  
たいな。

じいちゃんと近くの海にあそびにいつたね。ほくをかかえて海に  
入れてくれたり、きれいな石を見つけてくれたり、魚つりを教え  
てくれたりしたね。じいちゃんが石をなげたら、遠くに遠くにと  
んでいつた。どこまでいつたんだろう。ほくのきろくは、ソフトボー  
ルなげ六メートル。じいちゃんなげたら、どのくらいとぶのかな。  
どうやったら遠くまでなげれるの？こんど、なげかた教えてね。

げんかんにツバメのすができたら、げんかんの出入りできな  
くしちゃった。やさしいね。

今年も、きよ年みたいにツバメがやつてきたね。ツバメがすを  
くりはじめると、えがおがすこかつたね。うれしそうだったよ。  
そうしたらきゆうに、「すをつくつているから、げんかんなから入ら  
ないでね」と言つたね。台所のうら口から入らなきやいけなくな  
たね。家に入りにくくなつてたいんだよ。でも、ツバメのために  
やるんだね。考えつかなくつたね。ツバメもうれしいだろうね。

ほくにいつばい教えてくれたんだから、おとうにも教えて  
ね。そのときはほくも手つたうよ。ねえ、じいちゃん、まだまだ  
いつばい教えてね。

## 大きな声であいさつ

鹿児島県 神村学園初等部二年

宮里 慈恩

「大きな声であいさつしようね。」  
 おかあさんがいつものように言いました。ぼくは「分かっているのにな」と心の中で思いました。おかあさんは、すれちがう人につりわらって

「こんにちは。あついですね。」とあいさつをします。すると、「こんにちは。いい天気ですね。」とあい手の方が、につりわらってぼくを見ます。ぼくは、かおを下にむけて小さな声で「こんにちは。」とだけ言います。「あらあら、大きな声であいさつしなくっちゃっ。」とおかあさんの目が言っています。ぼくだって、大きな声を出そうと思っているのに。なぜだか、いつも声が小さくなってしまうのです。

「大きな声であいさつすると、みんなとなかよくなれるんだよ。」とおかあさんは、何回も教えてくれます。そのたびに「本当に大きな声であいさつするだけでなかなかなるのかな。」と心の中でうたがってしまいます。

四月四日、ぼくは二年生になりました。春休みにひっこしをして、新しい学校にはじめてとう校する日です。おかあさんは、おしごとで一しょに行くことができませんでした。朝、おくつてくれる車の中で、あいさつのれんしゅうをしました。やつぱり小さな声になるぼくを見て、おかあさんがにつりわらいながら

「大きな声であいさつしようね。そうしたら、すぐにお友

だちができるよ。」

と話してくれました。ぼくは、やつぱり「本当かな。」と思いがながら「本当だいいいな。」とも思いました。

「がんばってね。おうえんしているからね。」

とおかあさんに言われて、ぼくは車をおりました。地めんはふわふわするのに、ひざはかちかちにかたくなりませす。あるくたびに、心ぞうがドクドクンと大きな音をたてませす。

しきょうしきの一番はじめに、てん入生のしょうかいがありました。ぼくは、四人のてん入生の中で、一番にあいさつすることになりました。心ぞうは、さつきよりもドクドクンと大きな音をたてています。大きなわだいのようにドクドクン。おかあさんがはつびよう会でたたく音のようです。ぼくのむねの中で、おかあさんが「じおん、がんばれ。」と力いっぱいおうえんをしてくれているのだと思いました。そうしたら、

「みやさとじおんです。よろしくおねがいます。」

とれんしゅうよりも大きな声が出ました。みんながバチバチと大きなはく手をしてくれました。むねの中のわだいのこも、やさしいカチカチという音にかわっています。おかあさんが「よくできました。」とほめてくれてるようです。

大きな声であいさつできたぼくには、おかあさんの言った通り、すぐお友だちができました。おかあさん、ぼくにあいさつを教えてくださいありがとうございます。

## 優秀賞 高学年の部

## おばあちゃん、ありがとう。

福島県

相馬市立大野小学校四年

武澤 里美

おばあちゃん、おばあちゃんには、伝えたいたくさんあるのがあります。「一番先に伝えたい」「ありがとう」と、それは、東日本大しんさいが起こつた時、おばあちゃんが、つなみから私を守ってくれたことです。自分にはなにも持たずに、私とまだ二才の弟、八十才のひいおばあちゃんを車に乗せて、つなみからにげてくれたことです。あのとき、いつもののんびり屋のおばあちゃんらしく、「だいじょうぶ、だいじょうぶ、つなみなんて来ないよ。」なんて言つて、にげなかつたら、私たちは今、ここにはいません。おばあちゃんは、今までに見たことがないくらいいきびしい顔で、私たちをだきかかえて車に乗せ、必死でにげてくれました。ランドセルや毎日学校に着て行つていたコート、小さい時に遊んでいたおもちゃ、お父さんの思い出のアルバム、みんなつなみで流されてしまったけれど、今、こうしておばあちゃんやみんなといっしょにいられるから、それだけでいいです。おばあちゃん、本当にありがとう。

次に伝えたい「ありがとう」、それは、おばあちゃんは今、かせつ住宅にくらしていて大変なのに、毎日、学校までむかえに来てくれたり、おいしい夕食を作つてくれたり、どこかに出かける時には、おこづかいをくれた

り、いつも私たちを想つてくれることです。かせつ住宅は、冬は寒くて夏は暑く、住むのは大変だけど、地しんが起きる前の生活と同じように、私たちの世話をしてくれるおばあちゃん。仕事が終つてお父さんやお母さんがむかえに来てくれるまでの時間、おばあちゃんとすごす時間は、場所が変わつたけれど、前と同じように、安心してすごせませす。おばあちゃんがよく作つてくれる手作りゼリーは最高においしくて、いくつでも食べられます。私が学校での出来事を話すと、いつもしんけん聞いてくれるおばあちゃん。本当にありがとう。

私はだんだん大きくなつて、おばあちゃんの家を毎日来ることはなくなつてしまつてもいいけれど、でも、今、おばあちゃんにしてみらつてほしいこと、わすれませんど。ときどき口ごたえをしてしまつてもあるけれど、ありがとうの気持ちには、いつも心にあります。おばあちゃんに助けられた命だから。これは私が生きている間、ずっとずっと続くおばあちゃんへの「ありがとう」です。

## 大きいばあちゃんありがとう

埼玉県

川口市立飯仲小学校五年

岩井 優希

ぼくは、毎年夏休みと春休みに群馬県高崎市のおばあちゃんの家に一週間とまりに行きます。ばあちゃんは、家事や仕事でいそがしくて、大きいじいちゃんは、ねながら野球を観ているので、ぼくは大きいばあちゃんと遊んでいます。高崎に行ける日が決まるとむねがわくわくして、出発の日までの一日が今までよりも長く感じてしまいます。

ぼくの大きいばあちゃんは、ぼくが小さいころからたくさんほめてくれます。何をしてもほめてくれます。だから時々てれくさくなつて、おし入れにかくれてしまいます。するとしばらくしてから、

「優希君は、何か研究でもしているのかねえ、しょう来は科学者になるよお。」

と、おし入れの外から大きいばあちゃんの話し声が聞こえてきます。ぼくは、またはずかしくなるけど、なぜかむねが温かくなります。

「いつ出ようかなあ。」

と、おし入れから出るタイミングをニヤニヤして考えています。

大きいばあちゃんは、テレビで悪い事をした人のニュースが流れると、

「悪いことをしようとしても、お天道様がちゃんど見ているんさあ。だから優希君は、いい事をしていなくちゃだめなんだよお。」と、言っています。お天道様は自分の心の中にもいて、良い行いも

悪い行いも、必ず自分だけは自分を見ている事を教えてくれました。

ぼくは、小さいころからこの話が大好きです。バレないから人の物をぬすんだり、人をいじめている人はきつと大きいばあちゃんのようにやさしい人にめぐり会っていないのだと思います。

ぼくは大きいばあちゃんに、物を買ってあげられないし、ご飯も作ってあげられません。でも、大きいばあちゃんは、

「優希君がいてくれるだけで幸せなんだよお。」

と言ってくれます。ぼくも同じ気持ちでおばあちゃんに会えるだけで幸せです。最近大きいばあちゃんは、

「おばあちゃんは、何も世間様の役に立っていないのに、ご飯を食わせてもらって申し訳ないねえ。」

と言います。そんな時ぼくは、自分の気持ちを上手に言えなくてだまっています。本当は、

「大きいばあちゃんにいてくれるだけで幸せなんだ。ありがとう。」

と伝えたいのには、はるかしくて勇気が出ません。

これからもぼくは、お天道様が見ている事を絶対にわすれないで、苦手な事にしようせんとしつていけると思っています。大きいばあちゃんからいつも

「優希君がいてありがとうだねえ。」

と、がんばれる勇気をもらっているからです。

## 優秀賞 高学年の部

## お母さんありがとう

滋賀県

甲賀市立雲井小学校五年

宝田 杏優

赤ん坊の頃から私は母と二人つきりで暮らしています。小学四年生の終わりまで学童保育があったので、学校が終わってから夕方まで母がむかえに来てくれる間、友達といっしょの時間を楽しく過ごしました。でも、五年生の春から、学童保育に行けなくなり私は、かぎっ子になりました。最初一人にいる時、不安とさびしきで母の帰りを待ちどおしく感じていました。しかし、日がたつにつれ、不安な気持ちもうすれ、宿題をしたりテレビを見たりとひとりで過ごす自由な時間がかえって楽しく感じるようになりました。

そんなある日のことでした。おなかがすいてラーメンでも食べようとなべに火をかけてしまいました。母と二緒の時には、料理の手伝いもしている私でしたが、「一人の時は火を使つてはだめだよ」と日頃からきつく注意されていました。

でもその時はテレビに夢中になつて火を使つていることをすっかり忘れてしまったのです。それからどれくらい時間が過ぎたのかよく分かりませんが「あつ」と思つて台所に走つていった時は、なべの湯がなくなつて底が真っ赤になつて今にも燃え上がりそうでした。母にしかられるという思いで頭の中が真っ白になつてしまいました。夕方母が帰つてきて穴のあいたなべを見たとき、私が母との約束をやぶつて火を使つたことを知られてしまったのです。

「何でお母さんの言うことを守らんの!!」「火事になったらどうするの!!」と大声で私をしかりました。私はすべて自分が悪いのだから一言、ごめんなさいの言葉を言えばよかったのに、思わず「ひとりにするからや!!お母さんが家にはいないのが悪いんや!!」思つてもいない言葉がいついから飛び出しました。あつ、ぶたれる。と思つたしゅん間、母は「そりやな、ごめんなあゆちゃん、お母さんが悪いんやな…」とさびしそうな顔で答えました。そして「けがしなくて良かったわ」と。その後いつもと変わらない夕食の時間が始まり、その日は過ぎていきました。

それから何日か過ぎたある日のこと、おじに連れられ母の仕事場へ初めて行く事になった私とその時目にしたのは、汗とほこりにまみれて一生けん命働く母の姿でした。私のためにずっとずっと父親代わりも続けてくれた母の姿です。私を見つけて、にっこりとほほえんでくれた母に私は思わず走りよつてだきつきました。何だかすこくうれしくて温かくて自分のわがままさはずかしく思う気持ちと共に「お母さん大好き、いつもありがとう」と口からでていました。

## たいせつなたからもの

鹿児島県

徳之島町立母間小学校一年

池田 誇子

「なんだろう、このおおきなほは。」  
あるひ、わたしのいえにおおきなおおきなほがとどきました。ふしぎにおもって、わたしはおとうさんにたずねました。「おとうさん、あれなにね。」

すると、おとうさんは、  
「あんなたちとやくそくよ。」といいました。「やくそくって。」  
「すこしかんがえてから、わたしはびんとききました。そして、おおきなこえでさげびました。」

「あつ、ぶらんこ。」

わたしともとは、まえからぶらんこがほしくて、ずっとおとうさんにおねがいしていました。でも、そんなのむりだろうなとあきらめていたのです。おとうさんは、わたしたちのやくそくをちゃんとおぼえてくれました。

「やったあ、やったあ。」  
わたしともとはうれしくて、てらすでなんどもでんぐりがえしをしました。

さつそく、ぶらんこづくりがはじまりました。おとうさんは、あたまにねじりはちまきをして、だいくさんのようです。まず、おとうさんは、おおきなまるたをかかたにかついで、はこびました。つぎに、まるたのながさやばしよを、一ぼん一ぼんかくにんしながらくみあわせました。そして、かさなつたところを、でこぼこのあるおおきなねじで、しっかりとめていきました。「ぐいん、ぎゅるぎゅるるる。」

おとうさんは、きかいをじょうずにつかつて、どんどんくみたてていきます。おとうさんが、はんとるをきゅつとにぎると、ねじがくるくるまわりながらあなのなかにはいつていきます。おとうさんのねじりはちまきから、みずのようにあせがぼたぼたおちてきます。すこしずつ、ぶらんこのかたちになってきました。

わたしは、なんだかどきどきしてきました。かんせいまで、あとすこしだからです。おとうさんは、ときどきゆがんでないか、しんけんなおおで、いろんなところからみえています。いよいよ、あなにひもをとおしてぐいぐいとひつぽって、こわれないようにしっかりとこていしました。さいごは、いちばんからだのおおきなおとうさんがのつてみて、ちえつくしました。すると、  
「ぎい、ぎい、ぎい。」

ちよつとぐらぐらしています。そこで、おおきなくぎをうって、せつたいにおれないように、つよくこていしました。ためしに、おねえちゃんのがつてみました。

「これは、たいふうがきてもだいじょうぶ。」  
おねえちゃんのことばで、まちにまつたぶらんこがかんせいしました。

「やった、やったあ。」

わたしは、うれしくてなんどもなんどもとびはねました。できあがつたぶらんこは、こうえんにあるような、りつばなぶらんこでした。わたしは、そらにとどくぐらい、たかくたかくこぎました。おとうさん、ありがとう。

## 入選 低学年の部

## さぎょうぎのお父さん

千葉県

市原市立有秋南小学校二年

金子 瑠奈

わたしのお父さんは、らっ花生のう家です。いつも、いっしょうけんめいに、おしごとをしています。

そんなお父さんは、いつも、さぎょうぎです。

はたけに行くときも、さぎょうぎです。はいたつに行くときも、おかいものに行くときも、さぎょうぎ。大人のあつまりでも、学校におむかえにくる時もさぎょうぎです。学校のポップコーンばたけを作りきた時も、さぎょうぎでした。

ユニボーや、トラクターにのつて、ポップコーンばたけを作ってくれました。

クラスの男の子たちは、いろいろなきかいにのるお父さんのことを、  
「すごいなあー。」

と、言っていました。

でも、わたしはさぎょうぎをきているお父さんがはずかしくて近くに行けませんでした。

しごとがおわつて、家にかえつてくるとつかれたかおをしています。

そんなお父さんを見て、「お父さんは、いっぱいはたらいているんだなあ。」と思いました。

わたしは、いつもさぎょうぎをきてがんばっているお父

さんに、シャツをプレゼントしました。こん色の夏っぽいシャツです。お父さんは、とてもよろこんでくれました。

でも、まだ二回しかきてくれません。わたしがなできてくれないのか聞いたら、お父さんは、「とつておきのときに、きるんだよ。」と、言っていました。

わたしは、「とつておきつていつだろうな？」と、思いました。お姉ちゃんも、お母さんも、  
「いつだろうねえ。」

と、わらっていました。

今日もお父さんは、いつものさぎょうぎをきて、はたけに行きました。

あつい、あついばかりで、トラクターにのつてがんばっています。

「とつておきの日」は、まだきていないけれど、いつものさぎょうぎをきてがんばっているお父さんを、わたしは、「お父さんはさぎょうぎがとてにあつているな。」と思つています。

でも、いつもさぎょうぎだから、たまには、とつておきのシャツをきてね。

## おいしいくなあれのじゅ文

鹿児島県

出水市立野田小学校二年

松田 龍司

「ザクザク、キュッキュツ、まだまだ白いお水だね。」

ぼくは、夏休みのお手つたいで、おこめときを、はじめておかあさんに教えてもらいました。今まで、ごはんをたべるばつかりで、おこめをあらったり、ごはんをたいたりすることなど考えたことがありませんでした。

「ぼくも、おこめをときたいなあ。」

というも、おかあさんがびつくりしたかおで、でもすぐににごとわらつて、

「ようし、やつてみようか。」

と言いました。おかあさんは、ながしだいで、ぼくがおこめをあらえるように、イスをじゅんびしてくれました。

ボウルの中には、はかったおこめを入れると、すきとおつていた水があつという間に白くにごつていきました。

「おこめをやさしくかきまぜてごらん。」

と、おかあさんが言いました。

ザクザク、キュッキュツ、おこめがなきました。ザクザク、キュッキュツ、もうすこし。そうつとお水をながしてもう一回。

「おいしくなあれ、おいしくなあれ。」

三回ぐらい、ぼくは、おかあさんといっしょに、じゅ文をとなえながら、おこめをときました。白くにごつていたお水も、だんだんすきとおつていきました。

心をこめてといだおこめをすいはんきに入れて、スイッチを

おします。

「おいしいおこめがたけるかな。」

ぼくは、たのしみとふあんでいっばいで、ごはんがたけるまで、ずっとすいはんきを見つめていました。まっている間は、とてもながくかんじました。やつとゆげが出てきて、ごはんがたけました。

今夜のごはんは、カレーです。ぼくはいちばんに、ごはんのおかまのふたをあけました。どきどきしながら、中のごはんを見ました。ゆげがおおにあたって、あつかったけど、中を見てみると、まっ白でびかびかのごはんがたけていました。

「うわあ、すごい。おいしそう。」

ぼくは、今まで何回も、たきたてのごはんを見たことがあるのに、いつもよりも、びかびかひかつたごはんに見えました。きつと、おかあさんといっしょにとなえた、おいしくなあれのじゅ文が、きいているのだなあと思いました。

ぼくは、じぶんがたいたごはんがびかびかがやいているのがうれしくて、うれしくて、カレーを何ばいもたべました。おかあさんも「いつものよりおいしいね」

と、言ってくれてうれしかったです。

いつもおいしいくなあれのじゅ文をとなえてごはんをつくつてくれていたんだね、おかあさん。ありがとう。また、おこめをといであげるよ、おかあさん。そのときも、おいしくなあれのじゅ文をいれてね。

## 入選 低学年の部

## おじいちゃんの手

福島県

会津若松市立謹教小学校三年 鈴木 愛渚

わたしのおじいちゃんの手は、とつてもしわくちやで、黒くて、右手のまん中のゆびがと中からありません。でも、何でも作れるし、畑し事をがんばるはたらきもの手です。そして、いつもあつたかい手です。

おじいちゃんは、山の畑で花を作っています。おばあちゃんといっしょに、朝の四時からトラックで花をとり畑へ出かけます。妹と二人で、おじいちゃんの家にとまりにいった時、朝おきたら、妹とわたしの二人しかいなくて、びつくりしたことがあります。朝し事にでかけるよと前の日の夜に言われていたのを、ねむっている間にすっかりわすれていたのです。妹とおっかなびつくりするすばんをしていると、台所の方でとっせんガタガタトントンという音がきこえてきたので、妹と二人でどろぼうかなと思つて、声を出さないようにして、そつとのぞいてみると、おばあちゃんがいそいで帰つてきて朝ごはん作りをしていたのです。おばあちゃんお三人でわらつてしまっていました。いつもにごこにこえ顔のおばあちゃんの手ぬぐいは、あせてびつしよりです。おじいちゃんもとつてきた花のたばをさきょうこやへはこびます。Tシャツは朝つゆとあせてぬれて、草のにおいがします。二人でいっしょうけんめい花をたばねて、一日に三十ケースぐらいいっつかします。

お花は真っ白なかすみそや、赤いヒベリカムなどを春から

秋にかけて作ります。冬は畑を休ませて、次のじゅんびをするそうです。おじいちゃんのゆびは、冬の雪かたしの時に、じよせつきのローターにひつかけてしまい、なくなつてしまったのです。でも、おじいちゃんは、そんなことにはへこたれません。

「花はとつてもかわいもんだ。子どものように、手をかけて、心をこめてせわをした分正直にきれいな花をさかせてくれるんだよ。」と言つて、今年もじよせつきを動かして、ハウス作りのじゅんびをしていました。毎年新しい花に出会えて、楽しいからなのかなと思ひました。わたしたちをかわいがつてくれるように、お花もかわいがつてせわをした分手にしわもたくさんできたのだと思います。

おじいちゃんとおばあちゃんの育てた花はとつてもす直に、まっすぐに育つて、大きくてきれいな花をたくさんさかせるので、東京やにいがたの市場でもたくさん買ってもらえます。大きなじしんがあつて、福島は原発の心ばいで、食べ物だけでなく、花までも買ってもらえるのが少なくなつた事もあつたけれど、がんばりやおじいちゃんの花は、今年もたくさんきれいな花をさかせました。

どんなことがあつてもまけないで、たくましく、きれいにさく花と、たくさんはたらいてしわがいつばいできたおじいちゃんの手は、わたしのじまんです。いつもやさしく大切な事を教えてくれてありがとう。長生きしてね。

## 私のおじいちゃん

埼玉県

吉見町立東第一小学校三年

岩崎 美咲

私のおじいちゃんはやさしくて物知りなので、たくさん私に私に教えてくれます。

学校へ行くときには、毎朝お見送りをしてくれます。家の畑を出たところまで送ってくれます。おじいちゃんとわかれてすがたが見えなくなるときに、おじいちゃんがシヤベルでガードレールを「ゴーン！」とたたきます。これがおじいちゃんの「いつてらっしゃい」の合図です。私は大きな声で「行つてきます！」と言つて手をふります。

おじいちゃんは花や虫、鳥などにとてもくわしくて、いろんなことを教えてくれます。

ホトケノザは、花の下にホトケ様がすわる台ざのような葉があるので、ホトケノザというんだよ、と教えてくれました。

何か教えてもらつたらすぐにお母さんやお父さんに教えてあげます。するとお母さんが

「美咲は物知りだね。」

と言うので

「今日おじいちゃんから教えてもらつたんだ。」

と言います。

春、家の庭のさくらがまん開になると、さくらの木の下でいつしよにおべん当を食べます。食べ終わつた後、ごろんと横になると、ぶうんぶうんとみつばちがとび交う音がします。

「横になると気持ちいいな。」

とおじいちゃんが言います。私もいつしよに横になってさくらの

花を見てみつばちの音をきくと、春つていいな、と思います。

夏休みには近くのプールへつれて行つてくれました。いつしよにプールに入って泳ぎのきょうそうをしたり、私とお兄ちゃんがうきわで遊んでいるのを見守つてくれたりします。

川遊びにもつれて行つてくれます。今年の夏は都き川に行きました。

おじいちゃんが川の中に金魚をみつけ

「みんな取ろう」

と言いました。あみがなかったので、ビニールぶくろでとりました。全部で三匹とれました。いけすを作つて金魚を入れました。おじいちゃんがいけすの上に葉でやねをつくつてくれました。やねがあれば金魚も暑くなくていいな、と思いました。

ある時、おじいちゃん

「四つ葉のクローバーがたくさんあるところを見つけたからいつしよに行こう。」

と言いました。

行つてみると本当にたくさんさんの四つ葉のクローバーがあり、時には五つ葉のクローバーもありました。たくさん持ち帰つて、おじいちゃんも私もおし花にしました。今でも大切にとつてあります。私の宝物です。

おじいちゃん、いつも楽しい時間を作つてくれたりいろんなことを教えてくれてありがとう。おじいちゃん大好き。これからもいつしよに楽しくすごそうね。

## 入選 低学年の部

## じいちゃんのおねがい事

神奈川県

横浜市立伊勢山小学校三年

椎屋 ななほ

おじいちゃんのしゅみは、写真をとることです。朝のさんぽや外出の時にはかならずデジタルカメラをもつていきます。さんぽ中に見かけたカルガモの親子やアオサギの家族、春や秋の七草、庭先のツバキ、ゴマダラカミキリ、イラガの幼虫：と自分のとつた写真をハガキにいんさつして、お姉ちゃんと私あてに送つてくれます。四年前の夏、私たちがいた暑中みまいのお返事から定期的に送られてくるようになったおじいちゃんのおハガキは、今では百六十五通になりました。

おじいちゃんはアイデアマンです。時々私たちにおねがい事をします。去年は、

「写真のモデルさんになってほしい」

でした。日南市のいの崎鼻という所で、二つの島をバックにお姉ちゃんもブリッジをしました。他の場所でもブリッジをして写真をとりました。何どもブリッジをするのは大へんだけど、「いやあ、いい写真だ。」

とよろこぶおじいちゃんの顔を見たら、とてもうれしくなりました。おじいちゃんは、

「とつてもいい写真がとれたからモデルさんたちにお礼をしなくちゃいけないな。」

といて、ソフトクリームをごちそうしてくれました。ブリッジをして写真をとつたこともみんなでいつしよにソフトクリームをたべたこともわすれられない思い出になりました。

今年のおねがい事は、

「じいちゃんの通つていた小学校の校歌を合唱してほしい」でした。おじいちゃんは、わからないことがあるとかならず本で調べたり、くわしい人に聞いたりして答えをさがします。小学校の校歌を思い出したいと考えたおじいちゃんは、母校に問い合わせせて昭和八年に作曲された校歌の古い文字楽ふをとりよせ、知りあいの音楽の先生にたのんで五線ふに直してもらつたそうです。私たちは何ども練習をして、校歌を歌っている画ぞうをおじいちゃんにプレゼントしました。

おじいちゃんは、

「ほう。二人ともよく歌えてるなあ。」

「じいちゃんもよく聞いておほえなくちゃ。」

「高音がきれいだ。」

とたくさんほめてくれました。今でも毎日三回再生してきいているそうです。

おじいちゃんは今年八十四さいで、時々足元がふらつくことがあるのでゆつくり歩きます。だから、私はそつと手をつなぎます。おじいちゃんの手は大きくて温かいです。得意のかたたたきもしてあげます。すると、

「とても気持ちいいなあ。」

と目を細くしてよろこんでくれます。

宮崎県にすんでいるのでなかなか会えないけれど、私はこれからもおじいちゃんよろこんでくれることをたくさんしてあげようと思います。来年はどんなおねがい事をされるのかな。

## 大すきなひいおばあちゃん

福井県

福井市立円山小学校三年

松北 航青

ほくは家族みんなが、なかよくて大すきだけど、とくにひいおばあちゃんに「ありがとう」を言いたいです。

ひいおばあちゃんは、ほくが家にあそびに行くたびに、「よう来てくれたのおー。元気やったか？」とうれしそうに頭をくしゃくしゃとなでてくれるよ。それだけでほくはうれしい気持ちになるんだ。

ひいおばあちゃんはどんなあそびもいっしょにしてくれるけど、ほくが広こくのうらに習った漢字や計算を書いたりすると、

「すごいなあー。ようできるんやなー。」

とおどろいてほめてくれるんだ。ほくはちょっとくいきになるんだ。ひいおばあちゃんはほめるのが家族で一番上手なんだ。

そんなひいおばあちゃんもテレビを見たり、ラジオを聞いたりしながら、いつも手を動かしており紙で千羽づるをおっているんだ。毎日毎日少しずつおつてさい後に糸に通してかんせいさせてるよ。それをしんさいにあった人や元氣を出してほしいなあと思う人の所へとどけたりしてるんだよ。今までに二万二千羽もおつたと聞いてほくはすごくおどろいたよ。家族もみんなすごいかん心しているんだ。

ひいおばあちゃんは、けんこうのために毎日ちゃんと決まった時間におきて朝ごはんを作ったり、そうじをしたりして、いつも家族の朝をえ顔をむかえてくれるよ。それを毎日つづけるだけでも、えらいなああとそんけいするよ。

「こうちゃん、けんこうが一番大事やぞ。」と言っているいろいろなおかずを作ってくれるよ。ほくの大きなまめや、いろんな野菜さいがはいったにしめを作ってくれるよ。それがとってもおいしく家族みんな

「おばあちゃんのは、やっぱり一番おいしいなあ。」

と言っているよ。たん生日や行事の時は、にんじんやひじきのぐが、たくさん入ったちらしずしを作ってくれるよ。ほくはこれが大すきでたくさんたくさんおかわりして食べても大じょうぶなように、いっぱい作ってくれるんだ。おかわりをするよ、

「いっぱい食べねのー。」

と言つてうれしそうにほくらを目を細くして見てくれているよ。ひいおばあちゃんのよるこんでくれる顔やうれしそうな顔をずつとみたいから、これからも元氣で家族の中心にいてほしいなあと思うよ。いつもありがとう。ひいおばあちゃん。

## 入選 高学年の部

## あんぱんママ

北海道

札幌市立円山小学校四年

赤祖父 ゆず香

わたしのママは、あんぱんが大好きです。特にこしあんが好きです。一生けん命働いたママは「つかれたあ」と言つては、あんぱんをバクツと食べて「元気ふっ活」と言つて、また動き出します。だからわたしは家であんぱんママと呼んでいます。

あんぱんママはアンパンマンみたいに、わたしやお姉ちゃん二人が困つていると、すぐ助けしてくれます。

わたしのあんぱんママはお料理がとて上手です。わたしの大好きなミートソースは一日コトコトにて作つてくれます。ミートスパゲティにして食べるのも好きですが、ミートソースと一緒に作るミートパイが好きです。

あんぱんママは、たまごうごでたまご焼きを作ることを教えてくれたので、今はお父さんのおべんとうの中に入れてもらえて、お父さんもよろこんでくれます。あんぱんママは、土曜日や日曜日におかし作りをいっしょにしてくれます。ドーナツやクッキーやチョコレートケーキやあんぱんなどたくさん作らせてくれます。そんなあんぱんママが大好きです。

あんぱんママは、わたしがさびしそうにしていると、「じゅう電、じゅう電」と言いがたたくさんキューツと抱きしめてくれます。

あんぱんママは、絵本を読んでくれたり、新聞を一緒に読んでたりしてくれる時が、わたしはとて楽しいです。あんぱんママは手話がとて上手なので、絵本を読みながら、手話を表現してくれて、

耳のきこえない人の一日のすごし方を教えてくれたりします。

わたしの通っているチアのダンスの発表会の時、先生の話を耳のきこえないお母さんに手話で説明しているのを見て、あんぱんママは、アンパンマンみたいに困っている人を助けて「すごい」と思いました。おふるの中で手話を一つ一つ教えてくれるやさしいあんぱんママがわたしは、大好きです。

あんぱんママは、むかし、盲学校で先生をしていたので、目の見えない人を助けたい気持ちがとても強いです。町へお買い物に行つて白いつえをついて歩いている人を見ると、「どちらへ行きますか？かたをお貸ししますか？」と困っている人に声をかけます。わたしは勇気がないけど、あんぱんママは「いつか困っている人をみかけた時、声をかけられるようになってネ。」と言います。そんなあんぱんママを見て、口で言わなくても、たいで教えてくれているんだと最近わかった気がしました。あんぱんママは、人に手を貸してあげた後、家に帰ってきて、「ちよつとつかれたから、そのあんぱん取つて。」と言いました。

あんぱんママは、アンパンマンみたいにかっこいいけど、ゴロンとソファーにねてからあんぱんを食べてじゅう電しているすがたは、ちよつとおもしろすぎるけど、いつも人のためにやさしいあんぱんママが大好きです。あんぱんママいつもありがとう。

## ま法の手、ありがとう

茨城県

桜川市立紫尾小学校四年

山中 寧々

授業さん観の日、私は友達のお母さんのツメにくぎ付けになった。ピースやラメの付いたきれいなツメだったからだ。

私はお母さんがマニキュアやピースをつけているのを見た事がない。お母さんにもたまにはきれいなツメをしてほしくなって、その日の夜お母さんに

「何でマニキュアとか付けないの？友達のお母さんのツメすごきれいだっただよ。」

と聞いたら

「料理やそうじをする時に気になっちゃうし、ツメがキラキラしていたらお仕事の時にかん者さんがビックリしちゃうでしょ。」

とちよつとさびしそうに言った。

お母さんの仕事は看ご師さん。毎日病気やけがをした人達のお世わをしている。入よく介助の日は十五人位のかん者さんのお風呂のお手伝いをするから、お母さんの手は夕方帰ってきてからもシワクチャだ。

お母さんの手は働き者。毎朝お父さんのお弁当作りから始まって、ご飯のしたく、洗たく、そうじと忙しい。時間がある時はかみの毛をきれいにあみこみにもしてくれる。遠足や運動会の日などはみんなが

「かわいい！すごいね！」

と言ってくれる様なキヤラ弁を作ってくれる。昼間はお仕事でたく山のかん者さんを助けている。帰ってきてからもすぐにご飯のしたく、ねる時は弟がお母さんのツメや指をさわりながらねるのでお母さんの手は一日中休みがない。

冬になると冷たくて時々切れてしまうお母さんの手。私と弟はクリームをぬってもらおう時にいつも

「ママの手いたいからいやだー。」

とさげんだりする。お母さんは

「ごめんね。でもしょうがないでしょ。」

とちよつとかなし気に言う。毎日みんなのために働いてくれている手なのにごめんね。

たったの二本の手と十本の指で沢山の事ができる手はま法使いの手の様だ。ピカピカのきれいな手もすてきで、お母さんがきれいなツメにした所もみてみたいけれど、シワシワでもお母さんの手はかっこいい。私も大人になったらお母さんの様なま法が使える手になりたいな。

今日もま法の手は朝から大いそがし。ま法の手おつかれ様。その手がつかれない様に、私にできるお手伝いするからな。

お母さんのま法の手、いつも本当にありがとう。

## 入選 高学年の部

## お父さんありがとう

徳島県

徳島市立富田小学校四年

鈴江 日菜

わたしのお父さんは、かい体の仕事をしています。大きな重機を、自分の手の様に上手に動かして、仕事をしているのを、初めて見た時、家でゴロゴロしているお父さんじゃなくて、すこくかっこいいなと思いました。でも、けがをしないかとか、夏の暑い時は、熱中しようにならないかとか、いつも、心配になります。

この前、お父さんが、  
「暑いからかみの毛を切って、ぼうずにして。」  
と言うので、わたしが、お父さんのかみを切りました。すわっているお父さんの頭を後ろからバリカンで「ガーガー」とかり上げるとあつという間にきれいな丸ぼうずになりました。

お母さんとわたしは、  
「お地ぞう様みたい。」  
と言って笑いましたが、お父さんは  
「これですっきりして仕事の時じゃまにならないでええわ。」  
と、よるこんでいました。

そんなお父さんの頭をよく見ると、今までかみでかくれていた所がとて白くて、元はこんなに白いのに、こんなに真っ黒に日やけしていたのかとびっくりしました。毎日こんなに日やけするほどの暑さの中で仕事をしているなんて、大へんだと思ったし、きつと夜になっても体はあつくて、クー

ラーなんか、すずしく感じないだろうなあと思いました。

お父さんは、仕事から帰ってくると、パンツ「まいになり、せん風機を「強」でまわして、クーラーの温度をどんどん下げるのです。わたしとお母さんが、

「寒い!!」

と言って、温度を上げると、お父さんが、

「暑い!!」

と言って、また温度を下げるのです。

今までは、「お父さんが、太つとるけん暑いんじや。」と思っていたけれど、そうではないんだと分かりました。これからは、お父さんが少しでもすずしくなる方法を考えたいなと思います。お父さんは、ビールが大好きなので、おいしく飲んでもらうために、コップを、れいぞう庫に入れて、ひやしておいてあげようと思います。もう一つ、夜ねる時に、クーラーの温度を下げなくてもすずしくねれるように、アイスマクラを毎ばん用意しておいてあげようと思います。

お父さんいつも暑い中お仕事がんばってくれて、ありがとう。日曜日しかお休みがなくて、つかれているのいっぱい遊んでくれてありがとう。けがや病気をしないで、いつまでも元気できいしょにいてね。そして、けんこうのためにも、がんばってやせて下さい。いつもありがとう。

## 「負けへんで根性や！」

滋賀県

甲賀市立伴谷小学校五年

味田 梓生

私のお母さんは、とても変わっている。  
私が悪い事をして素直に「ごめんなさい。」と言うとお母さんはすく怒って、

「簡単に『ごめんなさい』と言うな！謝らなアカン事は最初からすんな！『ごめんなさい』に失礼やる！『ごめんなさい』に謝れ！」

と言うのだ。意味が分からない…。

お母さんだとしても大人気がない。子供と遊ぶ時はいつも全力でしんけん勝負だ。決して手をぬかない。私とテレビゲームをするはず、

「お母さんは誰にも負けへんで！アンタとは根性が違うんや！負けへんで根性やー！」

と言う。そして必ずといっていい程、勝負に負ける。

お母さんが対戦ゲームでいつも負けているのに自信満々で、諦めない理由が私にはわからない。

私は、全く逆の性格で、何でもやる前から、

「そんな無理やもん。絶対出来ひんもん。」

とすぐに言う。するとお母さんは、

「やる前から諦めるな！『私は出来る。絶対出来る』って何度も心の中で言い聞かせるんや！アズなら出来る。絶対出来る。」

とまるで、台風と竜巻と雷が一度にやって来たみたいに怒る。

私は石になったみたいに固くなって、だまって下を向いてしまう。

四年生の運動会の日、お母さんの声はガラガラでオッサンの声みたいだった。

学年別リレーの時、私のチームはトップだったのに、私の順番が回ってきて、ドンドンぬかされ、なんと最下位になってしまった。必死でトラックを走っている私の耳に誰よりも大きなお母さんの応援の声が聞こえてきた。

家に帰ってきた私にお母さんは、

「よく頑張ったなあ。梓生が一番輝いてたで！お母さん、ほんまに嬉しかったん！」

と言いつつ普段めつたにほめてくれないお母さんが何度も頭をなでてくれた。

本当に嬉しかった。最後まで諦めずに走ったから、お母さんは喜んでくれたのだ。まるで、暗く曇っていた空が急に晴れて、虹が出たみたいな気分になった。

対戦ゲームで、何度負けても諦めない母の考えが少しわかった気がした。

お母さんの子供に生まれてきて本当に良かった。

怒るととても怖いし、全然ほめてくれないけど、いつもまっすぐで、しんけんに向かい合ってくれるお母さん。

これからは何でもやる前から、「無理だ」とか、「絶対出来ない」なんて言わない。

「私は出来る！絶対出来る！負けへんで根性やー！」

## 入選 高学年の部

## 笑顔の源！私のひいおばあちゃん

お母さんのお母さんのお母さん。

つまり、私のひいおばあちゃんは、今年九十八才。まっしろな髪の毛とまっしろな肌をもった、ほわっとしたかわい顔のひいおばあちゃんだ。見ためとは違って、しっかり者のひいおばあちゃんはいつもみんなのことを考えてくれる。すぐ近くに住んでいるため、私が赤ちゃんの時は、お母さんを手伝って私のお世話に毎日来てくれた。足を使わないと寝たきりになるからと、日課である早朝の散歩をしていて事故にあっつてしまい、足が不自由になってしまったが、今でもとつても元気だ。

そんなひいおばあちゃんだが、何年か前から少しずつ、人の顔を思い出せなくなったり、ものを覚えていことができなくなつた。これは、事故のときに受けた手術の麻酔のえいきょうもあるらしく、私はそれが残念で仕方ない。

「おばあちゃん、いま何ややったっけ。」と聞くと、

「えーっと…五十六才ぐらいたかなあ…。」と一生懸命に考えて答える。五十六才だと、娘である私のおばあちゃんより若くなつてしまう。その場にいた全員が大笑いした。毎年、春と秋に面接に来る市の職員さんが部屋に入ってきたときには、いきなり知らない人が現れてよほどおどろいたのだから、なぜか警察の人だとかんちがいてしまい、「あの、私なん

にも悪いことしてませんけど…」とオロオロした。もちろん、

## 兵庫県 仁川学院小学校五年 深川 雪乃

市の職員さんと思わずにつこりである。

終戦前年の一月。ひいおばあちゃんが、生後一週間のおばあちゃんをおぶつて雪が降り積もる中を大勢の人とともに岐阜まで逃れたとき、ようやくの到着にほつとしてふりむくと、背中の赤ちゃんは息ができず、真っ青な顔をしていた。びつくりしたひいおばあちゃんは、必死で赤ちゃんの体を温めたそうだが、自分のほうが死ぬかと思うほどこわかつたと言う。もしも、あの時ひいおばあちゃんが気づかずにいれば、今私はここにいなかった。そう思うと、六十年以上も前の出来事と、今の自分が決して無関係ではないんだなあと思う。

ひいおばあちゃんは、昔のことならいろいろなことを覚えてくれる。そして、目をきらきらさせながらそのころの話聞かせてくれる。私には、それが少し不思議だ。

そして不思議なことがもう一つ。この最近、自分の弟や子供や孫の顔も思い出せないことがあるひいおばあちゃんだが、ひ孫である私の顔を忘れたことはないのはなぜだろう。

「ゆきちゃんかあ、よく来たねえ。」この言葉を聞くと、私はいつもうれしくなる。

私は毎日少しずつ大きくなるけれど、ひいおばあちゃんはまだん赤ちゃんみたいになっている。今度は私がお手伝いする番だ。ひいおばあちゃん、ありがとう！

## 母の口ぐせに学ぶ

群馬県

前橋市立大胡小学校六年

酒井 仁成

「人生は、前向きに楽しまなくちゃ。」  
が、母の口ぐせだ。そんなほくの母は、とても個性的だ。他の人がやらないことや考えないことを絶対にやる。ほくは、ゆだんしてふつうにかまえてやる。「またやられたあ。」ということになる。

今年の夏休み、ほくは学校の水泳をがんばった。午前中は強化練、午後はみんなも来るプール。ほくは、泳ぎ続けた。がんばって練習し続けたら、びつくり、選手に選ばれた。

ちょうどそのころ、ロンドンオリンピックが始まっていた。すると、母はほくを、『こうすけ』と元氣いっぽいに呼ぶようになった。本当の名前は『じんせい』なのに。水泳の北島こうすけ選手にちなんでのことらしい。呼んだら、速く泳げるようになると考えたらしい。でも、ほくが出場するのは、平泳ぎではなくて、自由形だ。そんなことは、おかまいなしの母。ほくの大会当日の朝まで、ほくを『こうすけ』と呼んでいた。

しかし、自分でも信じられない良い結果がでた。自己ベストを3秒も上回ったのだ。ほくは、毎日コツコツとがんばった自分をほめたいと思った。母は、にこにこしながら、『こうすけ』が効いたんだよ。」と、満足そうにわらっていた。

秋になると、今度は陸上練習が始まる。高学年が、市の陸上大会に向けて、練習する。母は、今度はほくのことを、『ポルト』と呼び応えんすと言っていた。でも、ほくが出場しようとしているのは、走りばとびだ。

ある日、ほくのつくった俳句が新聞にのった。ほくは、とて

もうれしかった。でも、ちよつとだけ『まずいかなあ』と思っ

た。なぜかというところ、お母さん ならみをきかせる 参観日』だからだ。ならみをきかせるは、おこられるかも…と思った。でも、母は予想とちがいがい、うれしそうに新聞を見て、父に自まんしていた。不安なほくは、思い切つて、

「お母さん、はずかしくないの。」

と聞いてみた。そしたら、やつぱり

「前向き、前向き。楽しいじゃない。」

と言ってくれた。ほくは、心の中で小さくガッツポーズした。さすがだ、と思った。

他にも、幼ち園時代の虫弁当事件はおどろかされた。こん虫好きのほくのために、真っ白なごはんの上に、いなごだけがのつている弁当。教室中が、楽しいパニックになった。家に帰って、母に話すと、

「楽しかったねえ。」

と、ねらい通りだったかのようにニヤニヤしていた。今でも、思い出すと、楽しい事件だ。

何かすごい才能があるような母ではない。けれど、ほくは今、幸せだと思ふ。だって、とても楽しい。何が起るかわからないワクワクの人生だ。母が母でよかった。

ありがとう、お母さん。「人生は、前向きに。楽しまなくちゃ。」ほくは、これからも、この言葉を手本にしていこうと思ふ。母のように、楽しく前向きに生きていこうと思ふ。

## 入選 高学年の部

## 「おかえり」の幸せ

滋賀県

彦根市立佐和山小学校六年

新井 鈴花

「お父さんは、鈴がまだ生まれていない時に、仕事場で、大けがをしたのよ。」

何年前かに、母が話していた。昔、私の父が、仕事の中で、トラックから落ちて、こしの骨をおって入院したそうさ。私は、そんなことはすっかり忘れて毎日を過ごしていた。

夏休みのある日、私は母に連れられて、父の仕事場へ行った。父は工場にいたのだが、私は父に会いに行くのは気が進まなかった。理由は、工場がくさいからだ。だけど、

「お父さんに、顔見せてきなさい。」

と、母が私の背中をおす。かけ足で、工場にむかった私。工場の中に入ると、鉄と油が混ざったようなにおいがする。父が、

「おー、鈴、来ていたのか。」

少しどろのついた顔で、こつちを見た。

「こつちには、来るなよ、危ないから。それに、きらいだろ、こにおい。」

と、笑顔の父。ふと、辺りを見回してみると、さびついた鉄パイプ、大きな大きなタンパー、ふうんとにおう工場独特のいやなに、おん、今にもたおれてきそうな立てかけてある木の板。そして、そんな中で、せつせと仕事をしている私の父。みように似合っている。カチャカチャカチャカチャ、何かを組み立てている慣れた手。何だか、かっこいいと思えた。

でも、家に帰るなり、私は自分の手を「しーしー」と洗って、にお

いをかいでいた。においがうつっていないか、確認。いつも、仕事場に行つて、帰つてきたら、必ずずる行動。

五時になって、いつものように、父が帰ってきた。あせをいっばいにかいて、あの仕事場のおいをもつて帰ってくる。

「おかえり。」

と、一言だけ言つて、また自分の世界へもどっていく私。その時、父の手にばんそうこうがはつてあるのに気づいた。ばんそうこうを見たしゅん間、私は思い出した。昔、父が仕事場で大けがをしたことを。急にこわくなった。また、父が大けがをしたらどうしよう、もしも死んじゃったらどうしよう、今日仕事場を見たかっこいい父を、もう二度と見れないかもしれない。父に、不安をぶつけると、

「気をつけているから、だいじょうぶ。」

と言われたけど、次の日、父が仕事から帰ってくるか、私ははらはらしていた。いつもなら、気にならないのに、時間が長く感じる私。「ガチャツ」ドアを開ける音がした。

「ただいま。」

いつものように、あせだくで帰ってきた父。私は、ほつとして、父が毎日無事に帰ってくるということが、どんなに幸せなことか分かった。夏休み、仕事をしている父が一番好きになった。あと、工場のおいがかっこいいなんてもう言わないよ。お父さん、これからも毎日無事に帰ってきてね。私達のために働いてくれて、どうもありがとう。

## おもしろいおとうさん

埼玉県

小川町立大河小学校一年

金子 美星

わたしのおとうさんは、げんばかんとくのおしごとをしています。あさは、いつもねむいみたいで、ねほけています。げんばにいくまえも、わすれものがおおくて、へやじゅうさがしまわっています。

げんばにいつてからは、うちあわせをしたり、じゅうきにのったりしています。でもなぜか、ヘルメットは、ななめにかぶっています。げんばではほかに、しゃしんをとったりしています。いえにかえつてくると、そのしゃしんをみせてくれます。でも、はなしにむちゅうになり、ときどきしゃしんをなくすこともあり、かぞくでさがすことがあります。わすれものがおおくて、そそっかしいおとうさんだけど、わたしや、おとうとと、よくあそんでくれます。つりにいつたり、こうえんにつれてつてくれます。でも、みちにまよったり、おさいふをわすれたり、おなかがいなくなつて、トイレからなかなかでてこないときもあります。そんなときはいつも「なんでもつとちゃんとしなのかなあ」とおもいます。そんなおとうさんだけど、きよねんの、ひがしにほんだいしんさいで、ていでんになつたとき、ヒーターがつかえなくてさむくてな

かなかねむれないわたしたちのために、ずっとあさまでギユッとだっこしてくれました。おとうさんのうでのなかは、とてもあつたかくて、おおきくて、きもちがよくて、わたしも、おとうとも、ぐっすりねむることができました。

いつもおもしろく、しっぱいのおおいおとうさんだけど、わたしたちのことをいつもいちばんにかんがえてくれるんだとおもいました。

わたしのおとうさんは、にほんいちあつたかくて、やさしいおとうさんです。おとうさんいつもありがとうございます。

## 佳作 低学年の部

## ぼくのおとうさん

鹿児島県

出水市立米ノ津小学校二年

上村 皓大

「おとうさん、あした、なんじにかえつてくるの。」

おとうさんは、ときどきかいしゃのしゅつちようで、おうちにいないときがあります。そんなときは、ぼくはさびしくて、おとうさんのこえをききたくて、けいたいでんわします。おとうさんがでんわにでると、ぼくはあんしんします。こえをきくと、もつとおとうさんにあいたくなつて、「はやくかえつてこないかなあ。」とおもいます。

ぼくのおとうさんは、とてもやさしいです。おとうさんは、かいしゃのおしごとがいそがしくて、おやすみもあまりないです。だけど、おやすみのひには、いつしよにおでかけしてくれます。ぼくは、おとうさんといっしょにおでかけすることが大スキです。かいいものにいつたりプールにいつたり、まえは、しんかんせんにのつたり、きりしまにかぞくりよこうにつれていつてくれたりしました。

このなつやすみには、ぼくたちちきようだい三人の「プールにいきたい。」というおねがいをきいてくれました。

おとうさんは、ちいさいプールで、ぼくがおよくれんしゅうをてつたつてくれました。ぼくは、おおきなプールにちようせんしたけれど、おもつたよりふかくて、ばたばたしていたらプールのそこまでしずんでしまいました。ひつしてプールサイドにあがったけれど、ちょうどこわくなつて、はいるうかどうしようかまよつ

ていました。おとうさんはすぐにとんできて、ぼくをおんぶしてくれました。おとうさんのせなかはおつきくてもちよくて、ぼくはとつてもうれしかつたです。おとうさんのせなかにいると、プールもこわくなくなつて、たのしくなつてきました。こわがつていたぼくをたすけてくれたおとうさんは、やつぱりやさしいです。そんなやさしいおとうさんが、ぼくは大スキです。

いつもやさしいおとうさんだけど、おこるときもあります。おこつたときのおとうさんは、おおきなこえでおこるのでこわいです。でもそれは、ぼくがやくそくをまもらなかつたり、ものをだいにしなかつたりしたから、おとうさんはおこつたんだとおもいます。

おこるときはこわいけど、やつぱりおとうさんのことがスキです。それに、かぞくのためにおしごとをいつしよけんめいがんばつてくれるおとうさんは、すこくかっこいいとおもいます。

おとうさん、いつも、ぼくたちのために、たのしいおもいでをつくつてくれてありがとう。こんどは、かぞくみんなで、またしんかんせんにのつてみたい。おしごとがいそがしいけど、いつか、ゆつくりおやすみがとれたらいいな。おとうさん、これからもからだにきをつけて、おおさんがいんばつてね。ぼくがおとなになつたら、おとうさんとおあさぎをりよこうにつれていくからね。たのしみしていつてね。おとうさん、ぼくは、やさしいおとうさんのことでも、ほんとうによかつたです。

## おじいちゃん だいすき

鹿児島県 鹿屋市立西原小学校二年 清水 桃華

わたしのじいじは、よるねるときに、むかしばなしをしてくれます。

わたしは、おとうさん、おかあさん、おにいさん、おじいさん(じいじ)、おばあさんの六にんで、ひとつのいえにくらしています。

ふつうだったら、おとうさんやおかあさんとねるとおもいますが、なぜか、わたしは、あかちゃんるときから、おじいさんとおばあさんのところでねています。

よるになると、おとうさんとおかあさんとおにいさんとわたしの四にんで、ばんごはんをたべます。そして、はみがきをします。

おにいさんは、はみがきをしたら、二かいにいつて、おとうさんとおかあさんといっしょにねます。

わたしは、はみがきをしたら、おとうさんとおかあさんに、

「おやすみなさい。」

といつて、じいじとばあばのおへやにいきます。

そして、おふとんにはいると、じいじのむかしばなしがはじまります。

「むかしむかし、あるところに、アイロンがありました。そして、おばあさんが、『これは、なににつかうの?』と

いいました。『これは、シワをのばすのよ。』とむすこがいました。おばあさんは、おでこがシワだらけだから、おでこに『シュッ』とアイロンをかけました。そして、おおやけどをしてしまいました。おしまい。』

わたしは、こんなにおもしろいむかしばなしを、まいにち、きいてからねています。ほかに、おもしろかったり、こわかったりするむかしばなしを、たくさんしてくれます。

じいじのむかしばなしは、えほんやテレビでしているはなしもあれば、じいじのつくりばなしまで、いろいろあります。

だから、わたしは、おふとんにはいると、たのしみで、わくわくします。

わたしは、じいじに、

「いつもありがとう。」

とこころのなかでいつてから、ねむります。

まいにちむかしばなしをしてくれるじいじが、すつこくだいすきだから、じいじにながいきをしてほしいです。

そして、わたしがこうこうせいになっても、むかしばなしをしてほしいです。

## 佳作 低学年の部

## ありがとう、じいちゃん

鹿児島県 日置市立妙円寺小学校二年 下川 陽翔

「じいちゃんひいだよ。じいちゃん、ひいがきたよ。」

ほくは、じいちゃんのみみもとでさげました。すると、じいちゃんのがすこしひらきました。

「じいちゃん、じいちゃん、いつもおこめありがとう。」

ほくは、またおおきなこえではなしかけました。すると、じいちゃんがくちをばくばくうごかしました。なにか、ほくにいつているようでした。びょうしつへおみまいにいつてからよつかごにじいちゃんはてんごくへいきました。

ほくは、じいちゃんがだいきでした。じいちゃんは、こころやさしくてつよいひとでした。いまのほくたちのじいじは、へいわです。それは、ほくのじいちゃんがせんそうでがんばってたかってくれたからです。ほくはせんそうをしりません。だけど、せんそうでたくさんのひとがなくなることは、とてもかなしことだとかんじました。そんななか、じいちゃんはいきのこりました。ほくがしつているじいちゃんは、いつもげんきでした。それは、きつとせんそうでなくなつたひとたちのぶんもいっしょうけんめいいきていたからだとおもいます。

また、じいちゃんは、たんぼでおこめをつくっていました。そのおこめはあまくておいしくてやさしいあじがしました。

「じいちゃん、どうしてじいちゃんのおこめはこんなにおいしいの。」と、ほくがきくと、

「それはね、ひいくんがね、おいしそうにたべているところをみた

いから、こころをこめてつくっているんだよ。」

とおしえてくれました。また、

「そんなにおいしいかね、じいちゃんのおこめは。じいちゃんもううれしいがよ。」

とにこにこわらっていました。

じいちゃんのおこめがのこりすくなくなってきました。なくなつちゃうのはかなしいけれど、たべるとほくをしあわせにしてくれます。やっぱり、じいちゃんのおこめはせかい一です。

おそうしきには、たくさんのひとがあつまっていました。ほくはなくなつたじいちゃんをみて、かなしかつたです。だけど、わかいたきのじいちゃんのしゃんがかぎつてあつて、ほくのじいちゃんはやつぱりかっこいいとおもいました。かそうばでおこつとなつたじいちゃん。じいちゃんのはねをはこのなかへいれるとき、ほくは、

「じいちゃん、てんごくでもげんきでね。」と、こころのなかでねがいました。

ほくはいま、いきています。じいちゃんがせんそうでももつてくれたこのくに、じいちゃんがこころをこめてつくってくれたおこめをたべて、じいちゃん(ま)であるおかあさんと。これからも、やさしくてつよかつたじいちゃん(ま)のことはぜったいにわすれないよ。ほくもじいちゃん(ま)みたいになつよいひとになるからね。ありがとう、じいちゃん。

## あいじょうの交かん

宮城県

仙台市立向陽台小学校二年

柏崎 日向子

「ひどいよ。そんなお母さん、いないよ。」それは、ほんとうのことなのに、ゆうりちゃんはおどろいていました。学校でゆうりちゃんに聞かれたのです。

「日向子ちゃんのお母さん、日向子ちゃんがいいところがあるとき、なんて言う。」

「うちのお母さんね、『そんなものはなくそをつけておけばなおるよ。』って言うよ。」

わたしは、そう、おしえてあげました。ほかにも、おかしのふくろをあけてもらったら、お母さんは「口たべてから、かえしてくることも教えてあげました。」

「日向子ちゃんのお母さん、ひどい。」

とクラスのみんが言いました。

わたしのお母さんは、あまつちよろいのが大きいです。ちよつこのすりきずを大げさにいたがるのは、すきではありません。はさがみがあるのに、おかしのふくろを人にかけてもらうような、くふうをしない人を、すきではありません。自分のことは自分でできるのに、それをしない人を好きではありません。わたしのお母さんは、もしかすると、みんなが言うように、ひどい人なのかな。いいえ、ちがいます。お母さんは、ちつともひどい人ではありません。なぜなら、どうしてお母さんがこんなにきびしいのか、わたしはきちんと、り由を知っているからで

す。わたしのお母さんは、わたしがだめ人げんにならないようにあいじょうをくれているのです。お母さんが何でもしてあげると、しょう来その人は、だめ人げんになるそうです。

お母さんは毎ばん、おふとんの中でわたしに本を読んでもくれます。そして、ギユツとだきしめてくれます。毎朝、学校に行く時には、

「たのしんでおいでねー。」

と、大きな声で言ってくれるし、わたしが角をまがるまで、ずつと手をふつてくれています。とつぜん、ほつべにキスもしてくれれます。いつも、

「あいじょうが足りなくなったら教えてね。」と言います。あいじょうが足りなくなった時は、だつこをしてももらいます。すると、あいじょうまんたんになったわたしは、パワーアップできるのです。あいじょうは、時々きびしくて、時々やさしい、むずかしいものです。

お母さん、お母さんのよさは、よその人には分かりづらいみたいだけれど、あん心してね。お母さんの心からわたしの心に、きちんとメッセージはとどいているからね。せかいで二ばん、お母さんが大好きだよ。これからも、わたしにいつばいいあいじょうをちょうだいね。わたしも、お母さんに、ありつたけのあいじょうをあげるからね。

佳作 低学年の部

## ぼくのべんとどう

鹿児島県

屋久島町立宮浦小学校二年 本村 一志

「きょうも、おべんとうおいしかったよ。とくに、たまごやきがおいしかったよ。」

と、おとうさんがでん話で、言ってくれます。

ぼくは、おかあさんのしごとで二年生のころから、やくしまにすんでいます。おとうさんは、さつま町のやくばで、しごとをしています。時どき、かぞくみんなのかおを見に、やくしまにきてくれます。土曜日の朝、一ばん早いこうそくせんできて、日曜日の二ばんさいこのびんでかえります。きつと、ぼくたちと、いっしょにいたいからだと思えます。ぼくたちきょうだい三人ともおとうさんに、ながくいてほしいので、

「おねがい。さいしゅうでかえつて。」

と言います。

さいしゅうでかえると、かごしまにつくのは夜です。だから、ぼくは、おとうさんに、べんとうをつくってあげます。

ぼくは、りょうりが大すきです。おとうさんは、あまたまごやきがすきなので、さとうをすこし多く入れてやいてまきます。

「あぶらを入れすぎると、太るよ。」と、おかあさんがいつも言っているの、あぶらはすくなめです。クルクルまくのもじょうずになりました。そのほか、プロッコリーをゆでたり、ベーコンまきをやいたりして、べんとうのかんせいです。おねえちゃんは、いつもいつも、そのべんとうの下に、手紙を書いて入れています。かえりついてから、おとうさんが、でん話で、

「ありがと。」

と言ってくれるのがたのしみです。ぼくは、目がしみて、玉ねぎが切れません。早く切れるようになって、もっとおいしいべんとうをつくってあげたいです。

## ありがとうおじいちゃん

福岡県

福岡教育大学附属久留米小学校二年

宇治 仁貴

「プルプルプル……。」

「あつ！じいちゃん、今でん話しようと思つてたところやったよ。」

「まちきれんで、でん話したよ。今日は、一日どうやった？」

これが、ぼくと、おじいちゃんの、まい日の会話です。

ぼくは、おじいちゃんが大好きです。おじいちゃんも、ぼくが大好きです。でも、おじいちゃんは、とおくのしみにすんでいてたくさんは会えませんが。

ぼくのおじいちゃんは、りょうしです。夏休みにおじいちゃんはいえに行くとおじいちゃんは、いっしょに魚つりをしてくれます。りょうしのおじいちゃんは、とってもかっこいいです。ぼくが、おじいちゃんに

「まぐろがたべたい。」

と言つたら、すぐにマグロをつつてくれるので、おじいちゃんはまほうつかいみたいです。

おじいちゃんとは、はなれてくらししているけど、まい日でん話で話しているので、いつもいっしょにいるみたいない気もちになります。ぼくがでん話しようかなあと思つていと、ちようどおじいちゃんからでん話があります。

そして、おじいちゃんと話す元気があるので、やつぱり

おじいちゃんはまほうつかいだと思います。おじいちゃん、いつもでん話してくれてありがとう。つきはぜつたいにぼくから先におじいちゃんにでん話して、

「まちきれなくてでん話したよ。」

と言いたいです。それから、おじいちゃんにはいろんなありがとうがたくさんあるので、ありがとうをたくさん言います。

ぼくのゆめは、おいしゃさんになることです。大きくなつて、おじいちゃんがびょう気になったら、ぼくがびょう気をなおしてあげます。だからおじいちゃん、ぼくが大きくなつて、りっぱなおいしゃさんになるまで、ずーっと元気でいてね。

おじいちゃん、たくさんたくさんありがとう。

おじいちゃん、たくさんたくさん大好きだよ。

## 佳作 低学年の部

## はたらき者のお母さん

広島県

東広島市立西条小学校三年

東谷 亮汰

「亮ちゃん、はよ起きんさい。ラジオ体操そのの時間よ。」

お母さんの声です。ぼくは、三年生になつてもまだ、お母さんにおこされています。夏休みの今日も。時計をチャラット見つつ、ベッドでぐずぐずしていると、いきなり足首をつかまれ、ズリツと引つぱられます。ぼくは、さらに、

「もう、毎朝毎朝いいかげんにして！夜おそくまで、野球を見よるからじゃろ。」

とおこられ、やつと起きます。

ぼくのお母さんは、ねるのがおそくても、家ぞくのだけよりも早く起きて、ごはんの仕度をしてくれます。リビングには、お父さんの服やハンカチ、水とも用意してあつて、お父さんは、着がえるだけです。ぼくが学校の時は、ちゃんときれいなせい服があります。仕度が出来ると、かならずげんかんまでおこつて、

「いつてらっしゃい。気をつけてね。」

と、言つてくれます。ぼくは、てれくさくて、くつをひっかけながら、「行つて来ます。」

と、げんかんをとり出すだけだけど、本当は、せ中にひびくそのお母さんの声がうれしいのです。学校がめんどうだなどと思う日も、その言葉を聞くと、ゆう気がわいてきます。

そんなお母さんは、家ぞくをおくつた後も、そうじゃせんたく、買い物、花の水やりなどいろんな仕事をやっています。PTA

の用事や、絵本の読み聞かせボランティアで、週に何度も学校で見かけます。絵本は、

「子供たちに、もつと上手に読んであげたい。」と、言つて、アナウンサーの読み聞かせこうぎに通つて、一生けん命練習しています。ぼくは、お母さんといっしょに本をえらんんだり、よんでもらうのが大好きです。

土日は、暑い日もさむい日も、ぼくのしよぞくする野球チームの練習や、し合につれて行つてくれます。練習の間もずつと、お茶当番やおしゃべりをしながら見てくれます。どろんこユニフォームを、ピカピカにしてくれるのも、お母さんです。

三月に、もうちようがはれつして、お母さんが入院した時、とても心ばいになりました。お父さんと家事をやつてみると、とても大へんなことが分かりました。

だから、お母さんがいそがしそうな時は、出来ることを手つたおうと決めました。夕方、せんたく物を入れてたむと、

「まあ、亮ちゃんありがとね。たすかるよ。まだ九才なのに、勉強もスポーツもすぐこがんばるし、優しいこともあつて感心するよ。金メダルあげなくつちゃね。」

と、言つてくれ、うれしくなりました。

ぼくも言うよ、

「お母さん、いつもありがとう。」

## はなればなれでも

鹿兒島県

南種子町立中平小学校 三年

宮ノ前 邑月

「父ちゃん、お兄ちゃん、ただいま。」

「おお、邑月、お帰り。」

一ヶ月ぶりに会う、父と兄。なつかしい家のおい。いつもすわつていた、みどりのいす。

わたしは、四月に指宿市から種子島の南種子町に引っこしました。母の仕事のてんきんで、家族が二つに分かれてしまったのです。わたしは、はなれてくらすななて、本当はともかなしいことなので、どうにかして家族いっしょにくらせないか、いろいろ考えました。でも、子どものわたしにはいい方法が考えつかなかったため、母と南種子町に行こうと自分できめました。

南種子の生活に早くなれようと、わたしも母も毎日一生けんめいがんばりました。学校に行っている間はさびしいなんて思わないのですが、夜ごはんを食べる時は、どうしても父と兄を思い出ささびしくなります。なぜかという、指宿ではいつも家族四人で、にぎやかにごはんを食べていたからです。学校であったことや次の休みの日には何をしておそぶかを話しながら。母と二人で、いつも、「お兄ちゃんたちもうごはん食べたかなあ。」

「今日は、何を食べてるかなあ。」

と心ばいしながら食べています。母が作ってくれたごはんはおいしいけれど、やっぱり家族四人で食べるごはんはさい高だったなあと心の中でおもいます。言葉にしてみましょうと、ないてしまいうです。それでもがまんしきれなくなったら、電話やメール

をします。父や兄の声を聞くと、初めはほつとして明日もがんばろうと思えます。でも、だんだんやっぱり指宿に帰りたいと思ったり、指宿に帰つてしまうと母に毎日会えないのはいいころからよく一しよにおふろに入り、休みの日はあそび、たくさん話をします。兄とも、ときどきけんかをするけれど、一しよにあそんだりべん強したり話をしたりなかよしです。はなれて生活すると、二人のいい所ばかり思い出されます。

ある日、わたしはメールを打ちながら、お気に入りの言葉を聞きました。それは、「はなれていても家族だよ」です。何回もつぶやいている内に、体の中から元気がわいてきました。よし、この言葉をわたしのお守りにしよう。そう決めたら、家族のみんなのお守りの言葉にしたかったので、母にも相談しました。母は、ふかくうなずきながら、

「それ、いいね。お母さんとても気に入った。」とよろこんでくれました。父と兄からも、「この言葉、大切にすよ。」とへん信が来ました。

それからわたしは、さびしくなった時、心の中でお守りの言葉をつぶやきます。

「はなれていても家族だよ。」

そうすると、安心します。だから、一ヶ月ぶりに帰つても、え顔でいられます。やっぱり家族は宝物。大好きで大好きでたまりません。

## 佳作 低学年の部

## お母さん、大すき

千葉県

鎌ヶ谷市立北部小学校 三年

伊藤 颯海

「はや海、はやくしなさい。」と、いつもお母さんにおこられる。ほくのお母さんは、とてもこわい。とくに、ほくがうそをついてしまった時は、「そんな子は、いっしょにいたくない。」と言われ、とてもかなしかつた。ほくは、かなしくてないてしまった。お母さんもないていた。ほくは、お母さんがないたことにびっくりしてしまいました。そして、お母さんをなかにしてしまったことに、もつとかなしくなつてしまった。

お母さんは、はたらいているので、パタパタといそがしそうにいつも動いている。ほくが、学校へ行くときも、いっしょに家を出て、帰ってくる時も、いつも学どうが閉まってしまうギリギリの時間にほくをむかえに来る。その時にかならず、「おそくなつてごめんね。」とほくの頭をなでてくれる。ほくは、お母さんの顔を見るととても安心して、いつもだきついてしまう。すると、お母さんは、もつと頭をギリギリなでて「さあ、帰ろうか。」と手をつないでくれる。お母さんの手は、温かい。ほくは、その手が大好きだ。

ほくは、毎日、お母さんにおこられる。でもそれは、少

しでも、ほくが、一人でできることが、多くなつてほしいと思つているから、おこるんだと思う。あと、いっしょにいつも楽しい時間をすごせるといいと思つているから、おこるんだね。ほく、いろいろがんばるからね。ほくは、知つてるんだ。おかしやジュースを、食べたり、のんだりしていると、かならず半分にしてほくにくれること。わすれ物をしないように、いつもかくにんしてくれること。ごはんもほくのすきなおかずを作ってくれること。いつもほくのことを考えていること。いっばい、いっばい知つてる。でも、またほくは、お母さんをおこらせてしまうかも知れない。ごめんね。ほくは、お母さんが一番大すき。ありがとう。

## おじいちゃん、ありがとう

秋田県

秋田市立大住小学校四年

榎 敬将

今年も、待ちに待った夏休みがやってきました。去年、ほくは肺炎にかかってしまい、二週間も入院して、せっかくの夏休みを台無しにしてしまったのです。それで、今年こそは楽しい夏休みにしたいと思っていました。しかし、いざ夏休みに入ると、お父さんもお母さんも毎日仕事だし、中学生のお姉ちゃんも何かといそがしく、ほくが思っていたような夏休みとは全然ちがって、少しいくつしてしまいました。

七月の終わりから、八月の初めに暑い日が続いていたころ、同じ市内に住んでいるおばあちゃんが、「ビニールプールを持っていったら。」

と言いました。それは、ほくがもつと小さかったころ、今は天国にいるおじいちゃんが買ってくれた、大きな大きなプールのことです。トンネルやすべり台、かいだん、的当てに輪投げもついた最高に楽しいプールです。

おじいちゃんの子どもは二人とも女の子で、ほくが初めての男の子だったので、生まれたことをとても喜んでくれたのだそうです。そのおかげで、おじいちゃんは、いつもほくといっしょに遊んでくれました。サッカーや野球、つりにも自転車の練習にもつきあってくれました。おじいちゃんのおぐらの上でごはんを食べることもありました。おじいちゃんには、ほくのことを、とくべつに「ちゅうこう」だの「豆ぞう」

だのとよんで、とてもかわいがってくれました。プールも、きつとほくを喜ばせようと思つて買つてくれたのだと思います。ほくがようち園に入る前でしたが、おじいちゃんが、あせだくになって、プールに空気を入れてくれたことを覚えています。

おじいちゃんが天国に行つてから七年がたつて、ほくは四年生になりました。ほくはずいぶん大きくなったけれど、七年ぶりにふくらませたプールはやっぱり大きくて、「ほくのため、すごく大きなプールを買ってくれたんだな。」と、またうれしくなりました。今年はおじいちゃんの代わりに、お父さんが一生けんめい空気を入れて、おかあさんがプールの水に、パパつとバスタリンを入れてくれました。プールの用意ができたなら、次は、ふんい気をもりあげるじゅんびです。サングラスのテーパーの上には、きゅうりパーや冷えたトマトに、ほくほくのジャガイモが並びました。アイスクリームやジュースもあります。気分だけはハワイになりました。

ちよつとたいくつな夏休みも、プールのおかげでとても楽しくなりました。おじいちゃんは、今でもほくを喜ばせ、喜ばせてくれるのです。ほくはおじいちゃんが大好きです。おじいちゃん、ありがとう。プールもおじいちゃんとの思い出も大事にしたいと思います。

## 佳作 高学年の部

## 自信をもたせてくれてありがとう

長崎県

南島原市立野田小学校四年

穂山 優成

ほくは四人兄弟の二番目だ。お兄ちゃんが六年生で、ほくは四年生だ。お兄ちゃんは運動も勉強も得意だ。それにくらべ、ほくは運動も勉強もそんなにうまくない。

ほくは今まで終業式がきらいだった。お兄ちゃんの通知表には、◎がほとんどない。お母さんは、いつも、「優成は、優成。くらべんでもよかよ。」

と言うけど、やっぱりくらべてしまつて、しゅんとなつていた。

三年生の冬、お母さんが、「優成も漢字検定試験は、うけてみんね。」

と言つた。もちろんお兄ちゃんは、毎年、受けていて合かくしている。ほくは、どうしようかまよつた。合かくするには、勉強しないとイケないし、もし落ちたら、はずかしい。

まよつていると、お母さんが、「優成、いっしょに勉強しよう。」

と言つた。それから、毎日、お母さんと本を見ながら勉強した。もうやめたかと思つたこともあつたけど、お母さんがはげましてくれるからがんばつた。

そして、ついにほくは合かくした。やつたあとと思つた。お母さんにとてもほめられた。でも、そのときは、合かくしたことがうれしくて、お母さんがいっしょに勉強してくれたことをすっかりわすれてた。

四年生になった。漢字五十題テストが始まつた。初めは、

五十題も覚ええられるか心配だつたけど、なぜかすいすいと覚えられるようになっていた。そして、なんと一学期の五十題テストは全部百点だった。お母さんが、「さすが優成。漢検七級だからね。」とほめてくれた。

それから社会の時間、県名を四十七こも、覚えなくてはいけなくなつた。しかも漢字だ。ほくはがんばつた。そしてたう学級で三位になつた。男子で二位になつた。

一学期の終業式の日、ときどきしていると、「優成君、よくがんばつたわね。」

と先生がほめてくださった。◎が少しふえていた。ほくはここにこになつた。いそいで家に帰つて、お母さんに通知表を見せた。

「優成、がんばつたね。これだけとれたら、上等、上等。」

と、お母さんがほめてくれた。おじいちゃんも、「かめはのろのおそかけど、うさぎがねているうちに、うさぎはぬいて一番になつたとぞ。優成もゆつくりでよか。ようがんばつたなあ。」

と、よろこんでくれた。

お母さん、ほくに自信をもたせようと、漢字をがんばらせただね。今、気づいたよ。ほく、少しだけ自信がついたよ。これからもかめみたいにゆつくりがんばるよ。お母さん、いつもほくのことを思つてくれてありがとう。

## ありがとうを伝えたい

佐賀県

嬉野市立久間小学校四年

尾島 諒

「諒ちゃん、おねがーい」その言葉でぼくのスイッチが入る。ぼくは、夜になると毎日決まってることがある。

ぼくは、お母さんのかたをたたくのが日かになっている。

ぼくがかたをたたき始めると、お母さんは、いつも

「あー、ごく楽、ごく楽」と言う。

そして、もう少ししたたくと、お母さんは決まって「あー、しふくの時」と言う。ぼくは、しふくの時ってどういう意味なんだろうと思っていた。

そして、最近になって「しふくの時ってどういう意味？」と聞いてみた。すると、「最高に幸せな時間よ」って教えてくれた。ぼくは、その言葉の意味を知ってからかたをたたくのが楽しみになった。

お母さんもぼくのかたたたきを楽しみにしているのかな。

今日は、月曜日。1週間の始まりだ。いつもより少しサーブスしようかな。ぼくはいろんなことを考えながらかたをたたく。そして、かたをたたきながら、もうそろそろあの言葉が出るころかなと思う。「あー、しふくの時」。いつものようにその言葉が出ると、ぼくは心の中で「よし！」と思うのだ。

佳作 高学年の部

## わたしのお兄ちゃん

滋賀県

高島市立今津北小学校四年

石田 千穂李

わたしの、中学三年生になるお兄ちゃんは生まれつきしょうがいを持っていてようご学校に通っています。まだひらがなも書けないし、おしゃべりも上手に出来ないけどわたしにはとても大切な、ステキなお兄ちゃんなのです。

わたしはいつもお兄ちゃんのことを、ゆうちゃんとよんでいます。ゆうちゃんはごはんが大好きで、いつもおかわりをします。お母さんが、

「食べすぎちゃダメ。」

と、言ってもニコニコ笑顔で空のお茶わんをさしだすと、ついお母さんもその笑顔に負けて、

「少しだけやで。」

とごはんをよそってしまいます。

うたやダンスも大好きで、いつもテレビを見ながら大きい声を出して、おどっています。時どき、

「うるさい。」

と、おこられますが、そんなことはおかまいなしで、ニコニコおどりつづけるので、最後には、いっしょにおどりだしてしまいます。

わたしがピアノの練習をしている時もピアノのそばにやってくる。わたしはひくピアノに合わせておどってくれます。時どき、ジャマだな、と思う時もありますが、練習

お母さんは、かたをたたいている間、「気持ちよかー」と何回も言ってくれる。それを聞くときぼくはうれしくなっていく。その手に力が入る。あと100回ぐらいサーブスしようかなと思う。たたき、もみ、ツボおし。足ふみ。いろいろワザを出す。最後の足ふみまでいくと、たいいとお母さんはねてしまう。

ぼくのお母さんは市役所で働いている。お母さんは市役所であんなに働いている。夕方おそく帰ってきて、それからぼくたちにおいしいごはんを作ってくれる。お母さんの仕事は大変なんだろうな。つかれているんだろうなと思う。

お母さんは朝からねるまでいつも動いている。お母さんの一日はとても長い。ぼくは、お母さんの一日の終わりを最高に幸せな時間にしてあげたいと思う。

お母さんおつかれさま。そして、いつもありがとう。

今日もぼくは、あの言葉聞きたくてかたをたたくのだ。

がイヤになっても元気が出て、またやる気が出てきます。ある時には、おふるあがりになつくとシャツやズボンをさかさに着てニヤニヤしたりしてわらわらせてくれます。わたしが泣いていると、何もいわないけど、かたをやさしくとんとんとたたいてくれます。

この世の人がゆうちゃんみたいな人ばかりなら、ぜったいに争いなんかおこらないだろうなあといつも思います。

お母さんはそんなゆうちゃんの頭をしょつちゆうなでては幸せそうな顔をしています。お母さんがゆうちゃんばかりかまうので、ちよびりさみしくなる時もありますが、それでもお母さんとゆうちゃんのエ顔を見ていると、わたしもうれしくなってきました。

ゆうちゃん、いつもやさしくしてくれて、ありがとう。

ゆうちゃん、いつもえ顔をいっぱいありがとう。

ゆうちゃん、これからもずっと仲よしでいようね。大好きだよ。

## 頑張りやお母さん ありがとう

千葉県 富津市立湊小学校五年 佐藤 宜之

「ただいま。」と、げんかんを開けると、「お帰りのさい。宜君、お腹すいたでしょう。やきおにぎりを作っておいたわよ。」

と、ここにこしながら、ぼくの大好きなやきおにぎりを作って待つていてくれるお母さん。夕べは、ほとんど眠っていないのに、お腹をすかして帰ってくるぼくのために、おやつやきおにぎりを作ってくれたのです。

ぼくのお母さんは、和裁技能士という資格をもっていて、お店や近所の人に頼まれると、着物を縫っています。だから、約束した日までに必ず縫い終わって届けないといけないのです。夕べは夏祭り用のゆかたをてつ夜で縫っていたのでしよう。赤い目をしていました。

お母さんが着物を縫うようになったのは、白浜のお祖母ちゃんのおすすめだったそうです。

「昔のようにお魚がとれなくなつたので漁師だけで食べていくのは大へんだ。毎日毎日、船に乗って漁に出て働いても大した収入にならない。女の人は、子育てや食事の仕度など家の仕事もたくさんある。だから手に職をもつたほうがいい。それにお前は器用で縫うことも好きだから和裁を習つたらどうだ。」と、お祖母ちゃんがすすめるので高校をでて干葉のお店に和裁を習いに通つたのだそうです。

初めは運針の練習ばかりで半年たつた頃やつとゆかたを縫わせてもらえるようになったと苦労話をします。五年間頑

張つて花嫁衣しようやお振り袖など二通りいろいろな着物が縫えるようになったときは嬉しかったと嬉しそうに話します。

お母さんがぼくたち兄弟四人によく「努力に勝る天才はなしだよ。頑張ればできないことはないよ。」と話してくれます。この言葉はお母さんが頑張ってきたから言える言葉だと思えます。その前の晩も夕べもお母さんはあんまりねいていないらしい。お母さんの根気強さにはいつもおどろいています。

ぼくの家は、大学生・高校生・中学生の三人のお兄ちゃんとぼくの兄弟四人の他に、お父さん・お母さん・お祖母ちゃん七人の大家族なので食事の仕度だけでも大へんです。

ぼく達の大好きなシチューやカレーを作る時はキャンプ用の大なべで作ります。じゃがいもや玉ねぎ、人参の皮をむくと山のように積もります。この山のような皮をみるたびにお母さんのすい事の大変さがよくわかり、ぼくはお手伝いをしてあげます。

こんなに元気で頑張りやお母さんが、お風呂に入った時、お腹の傷あとを指しながら

「靖君や宜君を産む時は大へんだったのよ。もう少しで親子で死ぬところだったわ。お腹を切つてやつとお前達を産んだのよ。」と、話してくれましたが、命がけでぼくたちを産み育て、どんなに疲れていてもいつもここにこ元気に働いてくれるお母さん、ぼくは、こんなに働きの頑張りやお母さんをもつて幸せです。お母さん、ありがとう。

## ばあば ありがとう

鹿児島県 鹿児島市立原良小学校五年 蒲牟田 佳穂

「まあまあ、よく来てくれたねえ。」

と小さくなつてしまつたばあばが、笑顔でむかえてくれた。

お盆に、ひいおばあちゃんの家へ遊びに行った。

いつもなら、お茶を飲みながら楽しくお話するけれど、今日のばあばは、ふとんに横になつていた。でも、私と弟が、ばあばの近くに行くと、ばあばが目覚まし、

「まあ大きくなつて、何年生ね?」

と聞いて、「二年生と五年生だと答えると、

「んまあ、そうね。あんたたちはまだ若いんだから元気でがんばんなさいよ。」

と言つて手をぎゅつとにぎつてくれた。ばあばの「がんばつてね」という力強く、やさしい言葉と、温かくて心がホッとする手から、たくさんのやさしさを感じた。ばあばは自分の体がづらいはずなのに、私のことを応援してくれたんだ。ありがとう。ありがとう。

私たちが帰る時、ばあばはいつも、車が見えなくなるまで見送つてくれる。でも今日は外に出ることができないから、ふとんの上で「また来てよ。遊びにおいで、待つてるからね。元気でがんばんなさいよ。」

と手をふりながら言ってくれた。私は笑顔で「また遊びに来るね、ばあばは長生きしてね。」と言ひ手をふつた。

ばあばは、七月で九十さいになった。私にとつてたつた一人のひいおばあちゃん。大好きで、とつても大切なばあば。

ばあばは、ようち園の運動会から、小学校の運動会まで見に来てくれていた。

私のために、朝早く来て最後まで、楽しそうに私のがんばる姿を見てくれた。

一年生のとき、ばあばの家二人で遊びに行つて、おいしい天ぷらを二人で作つたこともある。ばあばと作つた、天ぷらの味は今でもずっとわすれない。おいしかったなあ。

赤ちゃんの時から、ずっとかわいがつてくれて、ずっと応援してくれていた。ばあばがいたから、私は色々なことをがんばれた。ありがとう。ありがとう。

今の私がいるのは、周りのみんながささえてくれたから。そのことに感謝したいと思つている。その中でもいつも元気ややさしさをくれるのはばあばだ。だから、そんなばあばに恩返しをしたい。

私が思う一番の恩返しは、できるだけたくさん会いに行く事と、元気でがんばる事だと思う。だから、この二つを自分で行動していきたい。

ばあば、いつもやさしくしてくれてありがとう。「元気でがんばつてね」と私に、笑顔をくれてありがとう。私は、元気に「生懸命のひいおばあちゃんがんばらばあばで良かった。ずっと大好きで大切な、たつた一つの宝物。」

ばあばは長生きしてね。本当にありがとう。

## おじいちゃんありがとう

神奈川県 湘南白百合学園小学校六年 佐藤 二千夏

「ただいま！」

「来たかあ。よく来たなあ。」

埼玉のおじいちゃんの家に行くとおじいちゃんはいつものにこやかに迎えてくれる。私はほっとする。父が単身赴任をしているため、長期の休み以外にも週末になると私はよくおじいちゃんの家に行くのだった。

私がおじいちゃんの家に行つて必ずすることは、柱で背を測ることだ。

「背、測つてえ。」

「私が言うのと、先週測つたばかりの時でも、

「よしつ。柱に背を付けてしらん。」

と横にある引き出しから三角定規とえん筆を取り出してすぐに測つてくれる。

「前回より一ミリ位のびてるぞ。」

「おじいちゃんが声をあげると、

「あら、またのびたの。良かったじゃない。」

とお母さんとおばあちゃんが口々に喜んでくれる。私が立てるようになつてすぐの二歳のころから測つているから、柱の下の方からすつと上までたくさんの横棒が並んでいる。この柱を見ると、私も（大きくなつているんだな。）と実感する。

おじいちゃんと私は、空いている時間があると、将棋をする。いつも私が負けてしまふけれども、

「今回は、前回より飛車で攻めることができたなあ。あと少し

で負けるところだったよ。」と毎回毎回はげましてくれて、「じゃ、もう一回やるか。」

と何回でも相手をしてくれる。だから私は将棋が強くなるように、本を買つて勉強したこともあった。

車の運転が上手なおじいちゃんは、私の誕生日のナンバープレートの手で、たくさんのところに連れていってくれていた。

ところが、脳梗塞のせいで右足が利かなくなり、右手、左足、じん臓、心臓とじよじよにおじいちゃんの体調は悪くなっていった。そして、今年二月に車の運転ができなくなり、とうとう入院してしまつた。みんなでお見舞いに行ったときには、車いすに乗りながらも笑顔で話すおじいちゃんを見て安心した。その後、じん不全の治りようのために手術をしてとうせきの準備を進めた。しかし、おじいちゃんの血管は弱っていた。私は学校帰りに毎日お見舞いに行つた。学校からは三時間かかったけれども、全くつかれなかつた。日に日におじいちゃんの容態は悪くなつていくけれども、また元気になるとしか考えなかつた。

しかし、六月におじいちゃんは亡くなった。二か月以上経つた今でも信じられない。今でもおじいちゃんの家に行くとおばあちゃんの声と共に

「来たかあ。よく来たなあ。」

とうれしそうにつぶやく声が聞こえる気がする。いつも優しく接してくれたおじいちゃん。ありがとう。

## 佳作 高学年の部

## 仕事をがんばるお父さん

神奈川県 湘南白百合学園小学校六年 民上 茉優

お父さんが行方不明！。その日の夜、私が寝ようと準備していたら、お母さんが、

「お父さんと連絡が取れないんだけど、どうしたんだろう。」

と、心配そうな声で言いました。いつもなら、携帯電話で連絡してくれる時間なのに、電話がつかないのです。私は、お父さんが変な事件に巻きこまれて行方不明になったんじゃないかと不安で眠気も吹っ飛び、いてもたってもいられなくなりました。お母さんは何度も何度もお父さんの携帯電話にかけたり、勤務先にも電話を試してみたりしたけれど、まったく連絡がつかないまま、夜中を過ぎてしまいました。私は、「警察に連絡しようよ。」

とお母さんに言いました。お父さんがいなくなつたらどうしよう。私は不安で泣きそうになりました。学校に通い続けられるのかな、バレエは続けられるのかなとか色んな心配が頭の中をぐるぐる回りました。夜中の二時を過ぎた時、お母さんの携帯電話が鳴りました。お父さんからでした。私は、涙が出るほどほっとしました。

私のお父さんは、大学勤務の外科医です。この日、お父さんは仕事を終えて帰ろうとしたら、突然緊急手術に呼ばれてしまい、家に連絡を入れる時間もなく八時間の手術になつてしまつたそうです。私はお父さんに、

と、怒つて言いました。お父さんは、「ごめん、ごめん。大変だったんだよ。」と、笑いながら言いました。

私のお父さんは、胃と食道の手術が専門で、十時間ぐらいの手術をすることも多いそうです。いそがしくてお昼ごはんを食べられない時はしよちゆうだし、病院に泊まりこんで、家に帰れないときもあります。休みの日は、月に二日から三日ほどしかありません。お母さんに聞いたら、大晦日の新年になる直前に、緊急手術で呼ばれて出かけて行ったこともあったそうです。せつかくの休みの日も患者さんのことが心配だからすぐ病院にかけつけられるようにと、遠くに出かけないこともあります。お父さんはいつも患者さんのことを、番に考えているのだと思います。患者さんからお礼と感謝の手紙をもらうこともあるそうで、私は、そんな立派なお医者さんであるお父さんを、とてもほこりに思っています。

家では、どんなに疲れて帰つて来ても、私と愛犬と二緒に遊んでくれたり、年に二度は家族旅行にも連れて行つてくれて、家族のことも患者さんと同じように大切に思ってくれているお父さんです。お父さん、いつも家族のために一生懸命働いてくれてありがとう。お父さんのあとをついでお医者さんになれるかどうかかわからないけれど、私はいつもお父さんを尊敬していて、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

## 行って来るね！おじいちゃん

栃木県

小山市立豊田南小学校六年

黒川 栄美

「行って来るね！」  
私は登校前、毎朝おじいちゃんの部屋に顔を出します。すると、おじいちゃんも私に、

「はいよ！行ってらっしゃい。気をつけるんだよ。」  
と、いつもやさしく返事をしてくれます。何年もそのあいさつが続いています。同じ言葉が返ってくることを、ちゃんと私は知っています。けれど、その言葉を聞くと不思議とほっとし、元気がでます。

けれど今、そのおじいちゃんが、病気をわずらい入院してしまいます。数年前から、入院院をくりかえすようになってしまいました。私にとって、おじいちゃんとの朝のあいさつは、ごくごく自然のことだったので、今でもおじいちゃんの部屋をのぞいてしまうことがあります。とつてもさびしいです。

おじいちゃんは、すごく優しくて私は一度も怒られた記憶がありません。思い出すことといえば、動物園や水族館に連れて行ってもらったこと、一緒に庭でシャボン玉や花火で遊んでくれたことなどです。七夕の時は、おじいちゃんが、大きな笹をとつてきてくれて、家族みんなで短冊や、かざりつけをしたこともあります。私はそんなおじいちゃんに、普段はなかなか伝えられないけれど、ありがたうって思っています。

今入院中のおじいちゃんは、大きな手術を何度ものりこえ、がんばっています。だけど、思うように話せません。歩くのも

困難です。だから、私も時間をつくつて、おじいちゃんがいる病院へ会いに行きます。すると、おじいちゃんは、私の顔を見て笑顔になってくれます。私も弟も、おじいちゃんにもっと喜んでもらおうと、私は学校で教えてもらったけん玉の技を見せたり、車いすをおして散歩に出かけたりします。弟も、お手玉遊びや、おじいちゃんと指ずもうをします。そんな時おじいちゃんは、目をほそめて喜んでくれるのでうれしくなります。

でもお別れの時間がくると、元気な時は一度も泣き顔を見せなかったおじいちゃんが、顔がぐしゃぐしゃになるほど、なみだをこぼします。そんなおじいちゃんを見ると、私もつらくなり、「またね。」の言葉もつまってしまいます。なんて言ったらいいのだろう。言葉をさがすけれど見つかりません。そんな時は、おじいちゃんの手をそっと、にぎります。すると、おじいちゃんも、ゆつくりだけど、一生けん命私の手をにぎってくれます。言葉はなくても、その手のぬくもりでおたがいの気持ちに分かる気がします。家族がいいなって思います。

「家族」そう考えると、祖父・母・父・母・弟、私にとってみんなが、とつても大切な存在だと改めて思いました。これからも、家族とのきずなを大事にしていきたいです。そして家族のみんなに伝えたいです。いつもありがたう。それから、おじいちゃん一日も早くよくなつてね。

## 佳作 高学年の部

## 風ちゃんありがたう

鹿児島県

鹿児島市立宮川小学校六年

森田 峻介

ぼくは、三人兄弟の真ん中、次男です。

弟とは九才年がはなれているので、四年生までのぼくの立場は常に弟、末っ子でした。ぼくは何をしても兄の後ろを追いかけて、兄と比べられ、たまに、ぼくが努力して、うまくいっても周りの人は、ぼくを認めるのではなく、「やっぱりお兄ちゃんがいると弟くんもすこいね」と兄の存在をほめます。こんな言い方をされるのが、ぼくは、きらいで、兄にしつとすることも度々ありました。

そんなぼくも兄となって三年になりました。  
母のおなかが大きくなっていくにつれて、ぼくもお兄ちゃんとしての意識が高まっていき病院の先生が、お母さんのおなかの様子をぼくに教えてくれたのを思い出します。弟はやや大きく、その後も病気知らずといっているくらい元気に育ってくれました。ぼくは授乳以外は何でもするといっほどお世話もがんばりました。

弟がぼくの指をギョとにぎりしめてくれた感しよくも覚えていました。それに、初めてなみだを流した時、スポットで吸いとりうとしたことも今ではもう、笑える話になりました。

弟が十ヶ月ごろから保育園に行き始めて、親がむかえに行けないときは、一キロくらいの道のりを重いかばんと、弟をおんぶしながら、むかえて帰る事もよくありました。

やつぱり大変だけど、風ちゃんは、かわいいし、親から頼られた時もうれしかったです。

三才になった今、弟は、悪知恵がつき始めて困らせる事もあるようになりました。スパーでわがままを言い始めると母はすぐに買い物をやめて帰ります。家でも、泣きさけぶと、周りを気にして顔が変わります。どうして世間の目を気にするのだろうか、こんな行動も成長の過程なんだとぼくは思います。

でも弟は、ボール遊びや、自転車、鉄ぼう、つり輪、ぶらんこ、夏のプール遊びなどを動かすことは、三才とは思えないくらい得意です。周りの人もすこいとびつくりします。ぼくも弟がほめられているのを見ると、うれしくなります。

まだ弟には、わからないだろうけどぼくは兄の気持ちも弟の気持ちも分かります。なのでそれを生かして生活したいです。

そして、ぼくを、兄の気持ちも教えてくれた弟の風介に感謝の気持ちもこめながら、弟が大きくなったとき、ぼくの存在を喜んでくれるように、これからも成長の手助けをしていきたいと思えます。

## 選者あとがき

### あさのあつこ 「作家」

おじいさん、おばあさんのことを取り上げた作品が目を引きました。作文に登場するのは何か特別なことができる方ではなく、普通の方々です。でも、その人がそこにいるだけで素敵なことだと、読み手に感じさせる作品ばかりでした。子どものまわりの大人は、そこにいるだけで子どもの支えになることができる。このコンクールの審査員を務めていて、そのことを知ることでできたのが一番の収穫です。

### 尼子 騷兵衛 「漫画家」

どの作品にも「学校では教えてくれないこと」を教える大人の姿が子どもの視点でえがかれていました。20作品以上を苦なく、あつこという間に読んでしまいました。どのお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんも子育て上手で感心しました。みなさん、ほめてお子さんの力を伸ばしているんですね。読んでいるうちに、私の親が教えてくれたこと、してくれたことを思い出しました。

### 森田 正光 「気象予報士」

おじいさん、おばあさんが大事な役割をはたしている家庭のお話が目を引きました。私にはまだ孫はいないので、読みながら「もし孫がいたら…」と予行演習をしている気分でした。応募してくれた小学生たちは、あいさつや感謝の気持ちを表すことができていると思います。基本的なことですが、忘れがちです。このコンクールを通じて、素直な心を伸ばしていつてもらえたらと思います。

### 崎村 忠士 「シナネン株式会社」

子どもたちの飾らない言葉のひとつひとつが素晴らしかったです。真っ直ぐに育っている様子がうかがえました。読んでいて涙が出てくる作品もありました。作文に出てくる、家庭で大事な役割を果たしているお年寄りの言葉には重みがあると感じました。「大丈夫だよ」の一言にそれぞれの人生による裏付けがあるからだと思います。子どもたちの感謝の思いは、保護者の大きな自信になると考えています。

### 松本 宏樹 「朝日小学生新聞」

たくさんの子どもたちがきちんと感謝の気持ちを表していることに驚きました。どの子どもも保護者が自分に対してしてくれたことの意味をきちんととらえ、作文に反映させていました。作品を書いた子どもたちの、保護者に対する純粋な思いに心を打たれました。素晴らしい作品を書いた子どもたちを育てられた、保護者の皆様に感謝いたします。